

禅籍抄物研究(五)

叡山文庫所蔵史料について(下)

飯塚大 展

一、はじめに

本稿において、私は叡山文庫所蔵『碧巖録抄』(天海蔵)⁽¹⁾が、大徳寺派の語録抄の一つである『碧岩録古鈔』⁽²⁾と同系統の物であることを確認すべく、比較検討を加えたいと思う。先ず室町時代後期における大徳寺派の教学的背景について略述したい。又、室町時代後期には、仏事関係法語の増大が指摘され、禅僧の語録の質的变化が強調される。確かにいわゆる葬祭関係の法語は、現存の語録に占める比率は高いのであるが、そこには、語録の編纂方針が大きく影響している。後述するように、入室勤辨・垂示の記録が排除されているのであり、当然ながら密参の記事は見出すことはできない。即ち公案参禅の側面が欠落しているのである。私見によれば、大徳寺派において、語録抄と密参録は相互補完的關係にあり、そして師資相伝を前提とし秘密伝授される密参録は大悟の証明(印可)に直接的に結びつくものであった。しかしながら、大徳寺派における語録抄及び密参録の成立

とその歴史的展開については、未だ十分には明らかになされていないように思われる。⁽³⁾林下諸派における公案禅の参究は、その成立当初からなされてきたわけだが、口訣伝授の相伝史料として体系的成立を見たのは、恐らく応仁・文明年間の頃ではないかと推定される。それは、たとえば曹洞宗道元派下の諸派が地方展開を急速に押し進める時期でもあり、道元の言説によらない新たな教学の体系化がなされた時期でもある。林下曹洞宗において、特徴的な相伝資料としては切紙史料が存在するが、体系的にある程度まとまった史料の早期の事例が、やはりこの時期である。更に、中世における林下曹洞宗の教学は、入室参禅を中心とする本参がその主要な位置を占めていたのであり、先の切紙も亦「参」を中心とする公案参究の一環として受容されていた。

大徳寺派における公案参究については、一休宗純の『自戒集』⁽⁴⁾に見える、当時の入室参禅の弊風について口を極めて罵っている記事が事例として引用されることが多い。

(1) 康正元年ノ秋ノ末、養叟泉ノ堺ニ新菴ヲ建立ス。菴号ヲ

陽春菴ト云。異名ヲ養叟ノ入室屋ト云。同十二月二堺へ下向アリテ安座點眼、菴ヒラキニ五種行ヲ行フ。

一 二八入室、一 二八垂示着語、一 二八臨濟録の談義、一 二八參禪、一 二八人ニ得法ヲオシウ。

ソノヘンノ狂客無住榜ヲツカマツリ候。ソノ無住榜ト云。

一 休が、法兄の養叟宗頤を批判する語としてよく知られて
いるものであるが、入室・參禪・得法は、当時既に、師家と
学人(弟子)との關係が成立し、公案を參じて境界を高め、
悟りを得るといふ一定の修行形態が成立していたと思われ
る。一 休は、法兄の養叟宗頤及び会下の人々が俗人に入室・
參禪・得法を許し、安易に印可を認め、その見返りに金錢を
求めるあり方を容認し得なかつた。従つて、堺陽春庵におけ
る活動を批判して、彼らを仏法を世渡りの道具とする「榮衛
徒」であるとしている。『自戒集』の記事は、内容の荒唐無
稽は否定できないが、その落書、狂詩という性格を理解した
上で利用するならば、きわめて示唆に富むものである。

室町時代後期以降、林下大徳寺派においては入室參禪が盛
んに行なわれ、五山叢林とは異なる宗風を有していたと考え
られる。『自戒集』とは対蹠の性格を有する『大徳寺夜話』
には、

(2) 一、言外未上、於萬法不侶話、大徹大悟、養叟未上、於
古帆未掛話悟徹、華叟未上・春浦未上、於拈華微笑話悟徹也。

徹翁未上、不與物拘、脱體現成云古則悟徹、此時開山付囑主
文・拂子・法衣等也。

右の記事は、徹翁義亨 言外宗忠 華叟宗曇 養叟宗頤
春浦宗照といふ大徳寺主流派を形成した祖師たちが何れの公
案で大悟したかを示しているものである。それでは、彼らは
一体どれだけの数の公案に參じていたのであるうか。大徳寺
北派の 碧岩類則密參録 には、

(3) 建長大應國師者、廿五歲入唐、隨侍虛堂七年而嗣法、
此年國師廿一歲ノ時也。

開山大燈國師者、隨侍大應國師五年、參学百八十則ニテ罷參、
五十六歲ニテ遷化。

靈山大現國師者、大燈參八十則了畢大事。

養叟和尚者、華叟參八十則罷參。

大模者、參別傳、法ヲ嗣言外イヘ共、言外二八、半句ヲモ不
問。

春作者、自云、纔四五參テ了畢ト、大聖國師ノ沙汰也。

とあり、これによれば、大燈國師は大応國師に百八十則を參
じて了畢し、徹翁は大燈の八十則を參じ、養叟は華叟に八十
則を參じて、いずれも大悟したという。更に『大徳寺夜話』
には、

(4) 一、一 休八、古則八十則ナラデハ參ゼズト云レタ、碧岩
ヲ八、三十則參ジタ、其ノ支證八、人ニ碧岩三十則書テ出シタ。

此内ヲ問ヘト也。養叟云、一休ノ風韻漢ヲ八不嫌、師家不問、古則、推著テ心得類ヲスルヲ嫌フタ也。

とあり、既に、養叟や一休の時代、師家とよばれるには、実に多くの公案に参じなければならなかったことが、想像できる。『大徳寺夜話』には、徹翁義亨 言外宗忠 華叟宗曇 養叟宗頤 春浦宗熙を軸にそのエピソードが取りあげられており、中でも弘宗禪師（華叟）、大照禪師（養叟）、大宗禪師（春浦）の記事が多く見られる。従って、上記の一休に関する記事は、養叟側からの一休の評価として、貴重なものと言える。養叟が師の華叟宗曇に参じて印可を得たことは、一休は薫向から否定しているものの、大徳寺文書により確認でき、教学的にも、大徳寺派密参録や大徳寺派の抄物（大東急記念文庫蔵『碧岩集古抄』、叡山文庫蔵『臨濟録抄』 別本に足利学校遺跡図書館所蔵本・駒澤大学図書館所蔵本あり お茶の水図書館蔵『江湖風月集抄』（両足院所蔵本、足利学校遺跡図書館所蔵本）等に下語がしばしば引用されることからわかるように、指導的立場にあつて、後世に大きな影響を与えている。

上述のように、『自戒集』では、養叟の堺における教化活動を、五種行と言つ形で要約している。即ち 入室、垂示 著語、臨濟録の講義、参禅、得法を教えること、の五つである。そして、一休は、その総てを厳しく批判してい

る。

「垂示・勘辨」は、「語録抄」、「密参録」と共に、室町時代後期以降における大徳寺派の教学的背景を考える上で重要な史料であると思う。養叟宗頤の語録は、今日その大部分が散佚していることから、全体を現時点では見ることができない。『大照禪師語録』（養叟の語録）の奥書には、

(5) 大照禪師者、天澤の流、而龍峯中興之活祖也。室中語要亦夥矣。吁、世乱道微兵燹不熄。埶失厥本録、不能聽全機。今幸點檢殘纒得一二、以爲語録。庶幾千歲于雲補其缺略而已。

于時元禄乙卯季秋日、焚香拜書。

劣孫 宗玩 印

とあり、養叟には現存していないが多くの「室中語要」が存在し、垂示が頻々として行われていたことがわかる。このことは前掲の『自戒集』の記事とも符合する。東溪宗牧（大徳寺七十二世、永正二年 一五〇五 大徳寺入寺、一四五四、一五一七）には、『佛慧大圓禪師語録』三巻があり、その眞珠庵蔵の三巻三冊本が『大徳寺禪語録集成』第四巻に影印されている。東溪以前の養叟宗頤・春浦宗熙・實傳等の語録には、垂示はその編纂の際に除外されているが、東溪宗牧の語録には、垂示の部立て「室中語要」が存在する。そこには、華叟宗曇・養叟・春浦・実伝・東海宗朝らの垂示・下語が取り上げられており、垂示は節季や祖師の忌日、俗人の供養

(齋食)をはじめ、様々な機会に行われていたことがわかる。また師家がその際用いた公案に対する代語、下語が、後にその弟子や参学者によって再び取り上げられ、再吟味されることもあった。『大徳寺夜話』には、一休や養叟宗頤の垂示下語、代語の記事が見られるが、更に溯つて大徳寺開山大燈國師、同寺一世徹翁義亨の頃より、垂示が行われていたと思われる。

垂示は、独立した一書として記録されることもあり、黄梅院蔵『垂示 宗九和尚・清庵和尚』(徹岫宗九 一四八〇)、一五五六、清庵宗胃 一四八四、一五六二 垂示)、『笑嶺和尚垂示一問』(大徳寺第一〇七世笑嶺宗訥 一四九〇)、一五六八 垂示、『江隱菴』(所載)同蔵『垂示 玉仲和尚』(大徳寺第一百二世玉仲宗琇 一五二二、一六〇四 垂示)、『玉室垂示』(大徳寺第四百七世玉室宗珀 一五七二、一六一四 垂示、芳春院蔵『心源禪師諸稿新考』(所載)、松ヶ岡文庫蔵『黒漫々』(和溪宗順 一四九六、一五七六 闍書、正徳二年書写)、同蔵『龍嶽和尚葛藤』(龍嶽宗劉垂示、自筆本と近代写本の二種)等が現存する。中でも東京大学国語研究所蔵『大圓禪師垂示夜話』は、東溪宗牧の垂示に対して、注釈(弁)を付する点でも貴重な史料である。『大圓禪師垂示夜話』は、『東溪語録』室中語要下に所載の垂示にほぼ相応する。ちなみに宗牧は初め養叟宗頤の法嗣春浦宗照に参ず

ること十年に及んだが、春浦はその遷化に臨んで宗牧の後事を弟子の實傳宗真に託している。後に宗牧は實傳の法を嗣ぎ、東溪の号 既に春浦により鏡牛の号を得ていたのだがを得ている。

又、松ヶ岡文庫所蔵『黒漫々』(クハ 八七一)によれば、

(6) 大燈國師、徹翁、言外、華叟、養叟、春浦、實傳和尚、右之尊宿達ノ垂示・弁・問答有之、老後御慰ノ為ハ、書付傳ヘシ、堅ク佗見停止ニ可被成候、此垂示ノ書面ハ、此方ニモ稀レニ有之候、年々大望ニ存写シ置力事ニ候、

とある事からも、大燈國師、徹翁以降、大徳寺派では垂示が行われてきたことを確認できる。本書は、本文中に「雲居夜話和溪被留置候闍書之通」とあることから、大徳寺派の和溪宗順の書写本の写しであると思われる。又、その奥書に、

(7) 西天目山幻住開山中峰明本普應國師ノ建長廣徳古先印元ノ千岩元長ノ大拙祖能ノ建長廣徳雲英祖忠ノ建長 天叟宗祐ノ前禅興 風外宗天ノ傳叟比丘

とあることから、本書は幻住派の相伝書であると思われる。大徳寺派の語録抄や密参録の影響を承けて成立したと思われる幻住派の抄物は比較的多く見られが、垂示関連の資料にも同様の影響関係を見て取ることができ。

更に松ヶ岡文庫所蔵の『龍岳和尚葛藤』には、春浦宗照(松源院開祖、正統大宗禪師)やその法嗣実伝宗真の垂示が

記録されている。本書の原表紙には、「葛藤 大法真跡ノ垂示 三冊之内」とあり、大徳寺百四十二世龍嶽宗劉（一五五七—一六二八、竺仙大法禪師）による自筆写本とされるものである。本書と『大圓禪師垂示夜話』とは、その註釈の形態が類似し、取り上げられる大徳寺派の先師の語も共通するものがある。これは先の『黒漫々』についても同様のことが言える。

又、『佛惠大圓禪師語録』には、巻二に入室勤弁の項目が立てられている。所収の入室勤辨の記録は、（一）永正六年己巳年元旦於養徳院、（二）冬至入室、永正七庚午十一月十四日於江州中興寺、（三）永正八年辛未元旦於一枝軒、の三会である。このような入室勤弁の記事は、他の大徳寺派の語録の中には見出せない。しかしながら、それは実際に入室勤弁が行われなかったのではなく、語録編纂の際に排除されたものと思われる。大徳寺の塔頭龍光院には、春浦宗照の入室勤辨の記録が残されており、大徳寺百九十六世傳外宗左による「春浦和尚真蹟」との極書きが付されている。そこには、「永享十二年冬節廿日、就大用庵入室」から、「因明室光公禪定尼三十三回忌入室、宝徳二年九月廿一日」に至る入室勤辨を見ることのできる。同じく入室勤辨の史料としては、笑嶺宗訥の入室勤辨を侍者仙嶽宗洞が記録したものが田中博実氏によって紹介されている。

二、大徳寺派の公案体系

室町時代後期において、大徳寺派の公案体系は概ね固定したと言えるが、派下の諸派においては若干の異同があったと推定される。大徳寺派においては、臨濟録密參録、碧岩録密參録、雲門録密參録、百則密參録、五十則密參録、百二十則密參録 雑古則密參録 等があり、これらの密參録は相互に関係性を有し、ひとつの体系を持つものであった。

又、大徳寺派下の公案解釈について、「臨濟八種面目」（「八境界」とも呼称される）を取り上げてみたい。林下大徳寺派系の語録抄・密參録においては、「八境界」のそれぞれの項目は、公案理解の原理として、或いは公案における体系そのものとして機能している。更に、「八境界」は一つの公案として、『百則密參録』『百五十則密參録』の中に見出すことができる。

例えば、大徳寺派の密參録である滋賀県大津市西教寺所蔵『本来面目』には、以下のように見える。

（8）第廿九、本分。

下語、遍界不曾蔵、又吹毛劍、

弁、有無ニワタラス天下間充滿アル物本分候。此故遍界不曾蔵、下語シタリ。鉄團樂、本分打碎スト云心テシタ下語リ。鉄黒色

ホトニ、物ソマヌソ。本分物ソマヌソ。此故、鉄本分用タソ。
吹毛鋸。本分ノ名ソ。

第卅世、現成。

一、現成。

下語、月白風清。

弁、月白風清上、道里ナイソ、自然ナル処カ、現成ソ。

柳緑花紅云、自然カタチソ。柳ミトリニ見、花紅ミユルカ、マ
ツスクソ。是、現成ソ。

第卅一世、色相。

一、色相。

耳朶兩片皮。

弁、生得來、眼耳鼻舌身意ナスワサカ、色相テ走。

第卅二世、截断。

一、截断。

下語、斬釘截鉄。

弁、色相云物、大イタツラ物トミキツテ、吹毛鋸以、釘鉄キル
如クニスル処、截断走。

第卅三世、直指。

一、直指。

下語、車不横推。

弁、物マツスクニイ、アラワスカ、直指也。車横推物也。マツ
スク也。月在天水在瓶。月天アルソ、水瓶アルソト、サシテミ

セ又処、直指也。

第卅四世、為人。

一、為人。

下語、平生心膽向人傾。

禅宗云者、平生截断用ルソ。是平生心膽也。向人傾云処、截断
スベシソトミヤウソ。為人シタソ。

无孔鉄鎚當面擲。

无孔鉄鎚、アナノナキカナツチ也。用タヌ物也。是タトヘタ
也。其无孔鉄鎚面擲ミセタ処、本分為人シタソ。

又、百花春到為誰開。

是、春誰開ケトイワ子トモ、百花ガ開ソト為人シタソ。是現成
為人也。爰弁八、一句因縁御示アリテ、手ヲタレテ御スクイア
ルカ、為人テ候。

第卅五世、賊。

一、賊。

下語、作賊人心虛。

又、牡丹花下睡猫児。

弁、上何ナフシテ、底人タラスヤウナ事、賊テ候。虚言ノ事、
賊云物、心ミナ虚物、イツハリハカリソ。牡丹花下睡猫児、蝶

取クワント云心、真実睡ニテハナシ。賊云八、此ヤウナル事
ソ。

第卅六世、機。

一、機、

下語、錦包毒石。

又、黒花猫児面門斑。

弁、見分カタキ処、禪宗ノ機用テ候、白キカ黒カハ、見分ヨケレトモ、マタラナハ、見分難ソ。錦ケツコウナ物ジヤニ、中特石ツミタハ、ヨソロシキ、見分難心ソ。

抄曰、八境界中肝要用境界アリ、取出弁ヲ。

弁、色相肝要用フスルテ候、其子細、本分・現成・截斷・直指・為人・賊・機云モ、皆色相上、色相サヘ能用レハ、心法ヨイソ。色相ワロク用者、心法ワルイソ。印可印證取云トモ、此色相能受用タル人アル事、色相アシク用イタ者、印可ナイソ。然、千七百則公案無ナルソ。爰以、八境界中色相肝要用也云ヘリ。臨濟云、食物入物肝要、イカナル珍物美食、ケカレタ器物入タラハ、味カアルマイソ。麈草食物ヨキ器物入タラハ、風味カヨカラウト也。然間、色相能用得タル人、心清ヨイホトニ、色相アルヘキヤウニラサムルガ大事也。能々工夫可有。

(26ウ}29ウ)

『八境界註』(上下二巻、明暦二年 一六五六 刊)に依拠しながら、八種面目の各項については略述してみたい。「一条紅線」切紙によれば、「本分」とは、臨濟が、黄檗の六十棒下に大悟したことが、とりもなおさず、本来本分に契当することであり、父母未生以前の本身そのものだとする。

(9)青、本分、青^ト者、私云、青^ノ字^ヲ上^ニライタハ、黒色通用タソ、青^ト者、黒色也、生仏之分^チ無^シ、ホトニ、^黒色^ト出シタソ、青^ト者、黒色^{ナリ}、黒色^ト者、五色未分^ノ処タソ、其重八、法界融朗^{ニシテ}、更^ニ方^ニ無^シ、^阿文^意、又註^ニ、終^ニ仏^祖シハツラノ、イデ又重^クチヤソ、ホトニ、亦^ハ大黒闇トモ云ソ、青^ノ字^ヲ云^フ、碧^ノ九巻、潤水堪如^レ藍、已上、爰^ニ家門テハ、四料簡^ノ則^ハ、人境^ニ両^ニ専^トモ、位^ヲ定^メ、五位^ノ則^ハ、兼中^ノ一位、廊庵^ノ十位^ノ之^レ則^ハ、第八^ノ俱忘^ノ位^ヲサテ、マツカウアルニ、大事^ノ深^ク、得心^ノ有^ル事^ヲヤソ、本分、私云、本^ト者、本^ト来、分^ト者、五色未分也、生仏未分、天地未分、混沌未分、三未分^ノ処タソ、此^レ仮^ニラケハ、ヨツカシモノヲ、靈山^ノ釈迦^ニ渡^シ、少林^ノ達磨^ノ請取^ルヨリ已来、乱劇、今ニタエ又ソ、迦葉^ノ親聞、祖^ノ不^レ了^レ、渡^シツ、請取^ツシタ故^ニ、殃及^ニ児孫^ニ、錯迷、今ニタエ又ソ、^阿文^意、又註^ニ、本分^ト云ハ、向^上、タダカミノ事^ヲ、向^上、一路、千聖^モ不^レ伝、学者^ノ弄^レ形、猿^ノ似^レ捉^レ影、^国師、又註^ニ、本分^トハ、天地未分、未生^ノ以前^ノ指^シテ云タソ、爰カ、諸仏^ノ根源、衆生^ノ命脈^ヲ、此^レ仮^ニラケハ、ヨカツシニ、靈山^ノ釈迦^ノ渡^シ、少林^ノ達磨^ノ請取^ルヨリ已来、乱劇、今ニタエ又ソ、ホトニ、請取^ル渡シタ、手^モトガ、殃及^ニ児孫^ニ、誤^リ今ニタエズ、天下^ノノ神僧^ノ家^ノ大病^ト成タソ、

(『八境界註』上巻、1オ}2オ)

「一条紅線」によれば「自性」とは、単に「性」ともいい、臨済が黄檗の指示で高安大愚のもとに参じたとき、本分の事を得たことが、自性を悟った事だとする。大徳寺派の密参録の「八種面目」の次第では、「現成」の項目がここに定立される。「色相」とは、五蘊の色身、或いは六根・六識・六境の十八界をさす。

(10) 色相 私云、此段、四角立、八角立、順逆、間、迷前、見レハ、一ノ句面、迷ト見落ソ、亦註云、色相ト、現成トハ、迷悟ノ異タソ、悟レハ現成、迷ハ色相タソ、有物語、一人銭ヲ盗テ、仏ノ香ヲ買、善ナラウカ、悪ニナラウカ、有人ノ手ニ門前ノウバゴセ、心ヲ能クモタシメセ、迷ハ悪、悟レハ善タソ、二義、国師、又註云、迷心起妄故、十界三千事ノ万法ヲ、色相ト云也、是流転ノ作法タソ、何セ色相カ、流転ノ有様ソト云ニ、万法ノ色相ヲ、有ト聞ケハ、有ト計、無ト聞ケハ、無ト計、其コトニ滞留シ、縛セラルル程ニ、此カ流転ノ基、迷情不達ノ人ノ事タソ、花ヲ見テハ、色好花ト、ソコニ著ヲナシ、月ヲ見テハ、サテモサヘヤカナ月カナト、ソコニ留ル程ニ、迷妄流転テハ無力、畢竟ハ何ト悟レハ、現成ト成リ、迷ハ、色相ト成タソ、迷ノ故、此「彼」滞留シ、花月ニ愛著ヲ成シタソ、悟テ見レハ、月マテヨ、花マテヨ、少モ目ノ角ト立ヌソ、悟上ノ人ノ送リナレハ、月、月、花ハ花ソト、ナガヌキテ、心ナキコソ、道ノ道、真向見ルカ、悟上ノ人ノ見成様タソ、代云、サル沢ノ池ノ心ニ見ナシテ見ル

人モナキ秋ノ夜ノ月、本分・現成、偏正ニ落ヌ処、色相ハ迷イソメテ、偏正ト分タソ、ホトニ、此色相ヲ位ニ当ル時、十牛十位ノ中ニハ、第一尋牛、五位ノ中テハ、偏中正ニ当リサウヨ、サテ、四ノ八角ニシタハ、色相方法ト、カトヒシガ出来タソ、大龍小蛇ノ頭角、偏正ノ、カドヒシノ分ヲ処チヤソ、意ハ、花ヲ愛シ月ヲ愛シ、ソコトニ、シハリトメラレタハ、サテ、カトヒシノ出来様テハ無イカ、サテ、赤ノ字ヲ置、色相ハ、迷情流転ノ処、赤ノ字ヲ置タソ、意ハ、当処、五尺ノ境界見、血氣ニ依タソ、ホトニ、血氣ハ迷、流転ノ法タソ、

「一条紅線」によれば「直指」とは、本分無一物の処を示すことであるとする。

(11) 直指 私云、直指トハ、アリメノ事タソ、達磨西来、西天四七ノ法要ヲ、唐土ニ為レ弘、蘆葉ニ乘シテ来タ、即今モ、コノ直指タソ、以心伝心、深密ト云モ、此直指タソ、呈ニコソ、爰ヲ栢樹子トモ示シタソ、畢竟直指学伝法要ト云ハ、ニツナク、委曲無ノ事タソ、爰ヲ教意、維摩テハ、直心ハ是菩薩道場トモ説キナサレタソ、国師、又註、直指トハ、元来ノ有様ヲ不改、有ノ俛、スグメノ事ニシテ、少モ委曲ノ無処、天ハ高、地ハ低ト見、人間ハ豎、猪鹿ハ横ニ走ラ迄ヨ、何ニタル子細モ無イ事タソ、又、註、自己目前ヲ直指ト云タソ、意ハ、火ニ向テハ火迄、水ニ違テハ水迄、少モ念ガ出ヌ事、念トハ、凡夫有念ノ事ヨ、卒度

毛念ガ出レバ、自己ノ本智ニキズガツキ、本智ヲソソグザスソ、サテ、図ヲ四角ニシタハ、卒度モカドヒシノナイ、有リメノ体チヤソ、万法ノ消息、十界ノ当体、本来本色ノ作法ト見流シテ置タソ、代云、水緑リ山青シテ、屈ラ見ニ成敗、ドツコモ此消息ト見ヨ、山下路頭ノ景、御座ノナガメト打成テソウソ、少モアラタムレバ、ハヤ自己ノ本智ニキレメガ出来ルソ、呈ニ、是非ノ念ガ出レバ、カドヒシモ無い、有リ目マツ直ナ処ヲ、四角ニ図ヲナシタソ、五家七宗ノ時ハ、法眼宗ノ意ソ、法眼宗テハ、山は山、水是水ト、少モ不レ損、正平ニ花ヲハ花テ置、月ヲ八月テ置ソ、サテ、紅ノ字ヲ置テハ、元來其低ノ有様ニシテ、花ハ紅迄、少モアクラサ、又コトソ、畢竟直指、趙州因僧問、如何是西來意、庭前ノ栢樹子、是カ直指タソ、趙州ノ庭前ノ栢樹ニ向テマシマス時分、西來意ト問ニ依テ、目前ノ栢樹ト答テ、州ノ心地ニ、少モ子細ハ無ン、到モ喫茶去、不到モ喫茶去、趙州一代、学者ヲ示シ給フニハ、平生ノ言語ヲ以テ示シ給フ也、呈ニ、趙州ノ当処ニ向テ、見得親切レバ、前ニ無ニ釈迦ニ、後無ニ弥勒ニ、釈迦モ弥勒モ、終ニ此重ラシラナンタソ、百姓日曰ニ鋤犁ヲ携テ、重キコトヲ不知、爰カ自己ノ本性、少モ手指ノ付又事タソ、落居、州ノ答処ハ、何ト塵塵刹刹芭蕉ノ雨、落落村村楊柳ノ風、芭蕉ニ雨カ、サツトフリカカツタマテ、楊柳ニ風カ、ソヨト吹ッ迄、州ノ心肝ニ委曲ノコカケナケレハ、直指有リ目レ返タソ、

(八境界註) 卷下、47ウ〜48ウ

禅籍抄物研究(五)(飯塚)

「一条紅線」によれば「為人」とは、凡聖迷悟の差別を捨遣して第一義(真理)をそのまま説くのではなく、第二義門に下つて、相手の機根に依じて、接化し、仏法を説くことをいう。

(12) 紫、為人、私云、為人トハ、仏法ニ儀アリ、第一義ハ如レ常ノ図ハ、第二義ヲ示ス前タソ、教意テハ、大悲心ト云、教外テハ、為人ト云タソ、手ニ縦イ朽骨トナルトモ、魂ハ在レ君辺ニ常ニ君ニツカウト云、此意也、亦、註ニ云、上根ハ上根ニ随、中根ハ中根ニ随イ、ソレニ接物利生スルカ、為人ノ底タソ、国師、又、註ニ、此段ハ、大悲トモ云イ、為人トモ云タソ、亦ハ、自利他他円満位トモ云也、此人ハ、是非・得失・殺活ナドノ法儀ヲ、カラリト忘シテ、只寒夜ニ八紙頭巾、燠天ニハキレ団、何レ威儀ニモカ、ラヌ人ニ打成テ御座有ルソ、歌云、兔モ角モ人ニ心ヲワタシ舟風ニ任セテ世ヲワタリケリト、家風更ニ僧俗ノウカチ無ク、庵室ノ定メナケレハ、樹下ノ石上ニナリトモ、卒度モ人ノ機カネナトヲスル人テ無ソ、サテ、図ニ棒ヲ二筋引タハ、短ハ所化機ヲ表シ、長ハ能化、大悲ノ腰ノ傾ケヨウタソ、ホトニ此ノ図ハ、能所ニツラ表シタソ、又一義ニ、商量ノ取扱、第一義ト、第二義ニ下ルト云コトカ有ルソ、第一義ノ時ハ、生仏迷悟ヲ、クツト見抜ク処、第二義門ト下テハ智恵ゲナ間、クツトスリ尽シ、愚癡愚癡ト成テ、嬰兒ノナキヲスカシ、魚人漁人ノ類ニイニモ、ノウ能ク心ヲスクニモタシマセ、後世ヲヨクネガワ

シマセ、ト勸^マ、令^ニ成仏^ト事^チヤソ、呈^ニ、筋^ヲニツ置^タソ、サテ、紫^ノ字^ヲ置^タハ、紫^ヲ大^ニ悲^ニ取^ル故^ニ、為^ル人^ノ処^ニ、紫^ノ字^ヲ置^タソ、意^ハ、人^天成^仏ノ瑞^相ニ取^ルソ、積^尊御^誕生^ナサレテ、紫^磨金^色ヲ現^シテ、衆^生ヲ度^シテ、成^仏サセシメ^タソ、又、一^義ニ紫^ハ、五^色ノ体^ヲヲソ、黒^ニモツカズ、青^ニモツカズ、赤^ニモツカヌ色^ヲソ、畢^竟青^トモ黒^トモキ^ワマ^ラヌ^ハ、能^所不^ニノ処^ヨ、

〔八境界註〕卷下、51ウ〜52ウ)

「一条紅線」によれば、「機」とは、機関ともいう。機が発する処、その源は本分であるが、師家が学人を接化するに際して棒喝等(大機大用)を用いたりすることをいい、時に学人の立場を根底から否定し(把住)、時に学人の力を見届けようとする(放行)、接化の自在なありかたをいう。

(13) 碧、機関、私云、教外意ハ、機・賊ノ扱^カ力^有ルゾ、機トハ、機ガイノハタラキヤウ^トソ、如何是機、代云、眼似流星^ニ、機如^ニ製^電、ソコハ、チツトモ委^曲ノ無^イ事^ソ、亦註云、曹洞^ニ、機^ト関^ト性^ト、三^関ノ扱^有、機トハ、大^機大^用現^前ノ振^舞、衲^僧ノ眼^裏ヲソ、如何是機、代云、石^火光^中ニ定^命脈、国^師、又、註^ニ、機^ト者、靈^利性^相ノ漢^トモ云^也、於^レ機^ニ有^ニ種^種機[、]碧^岩ニハ、百^{二十}漢^ヲ拳^テ、一^ノ機^ヲ分^テ有^リ、然^ハ、漢^ト云^モ、機^ト云^モ、同^シ事^也、故^ニ、或^ハ鈍^癡漢^トモ云^イ、或^ハ担^板漢^トモ云^也、サテ、爰^ノ機^ト云^ハ、其^様、ヌカ^ツタ^機トハ無^イ、何^ニ

モハバヤイ、天^ト云^ハバ、地^ト心得[、]地^ノ処^ヲ天^ノ事^ヲハタラク^処ノ靈^利ノ漢^ヲソ、此^人ノ事^ヨ、眼^似流^星ニ云^テ、眼^指ノハヤ^イ事[、]星^ナドノ流^ル、如^クタソ、機^製電^ト云^テ、イ^ナヒカ^リナ^トノ如^ク、ツツドハバヤイ機^{シテ}、ト^コニモ腰^ヲスエヌソ、サテ、ハ^ハヤ^イ処^ノ靈^利テハ無^イカ、サテ、碧^ノ字^ヲ置^タハ、碧^ハミ^{ドリ}ト読^字也、岩^右ナ^トニ、イ^カニモ青^ヲシテミ^{ドリ}ノ体^ハ、人^天、八^万手^足ノカ^ヨヲ又^処、人^跡不^通ノ住^リ、其^コハ、靈^利性^相ノ機^ト云^テ、ナ^ントモ人^天ノ眼^力及^ヌ処^ヲ、呈^ニ、爰^テ、碧^ノ字^ヲ置^タハ、大^切不^通ノ処^ニ、青^ヲシテ有^処ノミ^{トリ}ノ事^タソ、サテ、四^角ニシテ、中^ニ棒^ヲ五^節引^タハ、五^位ヲ表^シタソ、五^位ト云^ハ、大^極・一^易・二^義・四^相・八^卦ノ五^位ソ、何^ニトシテ、是^ヲ機^ノ処^ニ当^タソ、此^五位^ト云^ハ、天^地陰^陽、四^方四^維アラ^ワシ^タ物^ヲソ、此^五位^ヲ靈^利ノ漢^ナレハ、只^一目^ニ見^ナカ^シ、一^足ニ踏^ツメ^タ、イ^カニモハ^バヤ^イ処^ノ機^ヲ、呈^ニ、五^位ノ表示^ヲ、此^図ニ置^タソ、

〔八境界註〕卷下、60オ〜61オ)

「一条紅線」によれば、賊とは、機関同様に一機のはたらきであるが、一般的な言辞、措定に対する反措定であり、僧を俗と呼んだり、俗を僧と呼称するよつな、常識的な枠組みを否定する、順逆で言えば、逆の立場である。「性」とは、本分の事であり、山は高く海は深く、柳の緑りに萌え花は紅いに咲くように、ありのままの姿が真理を体現していること

を言つ。

林下曹洞宗道元派下において、「臨濟八種面目」は、切紙、本參等においても參究されている。佐賀県武雄市円応寺所藏『參禪』(石屋派本參。円応寺八世華嚴宗藝所持)に以下のように見える。

(14) 臨濟八種面目。師云、機ヲ。代、活機ヲ走。師云、句ヲ。代、午日打三更。師云、賊ヲ。代、赤手門庭立走。師云、句。代、驢糞達人換眼珠。師云、性ヲ。代、烏黑鷲白走。師云、句。代、山高海深。師云、本分。代、赤肉ヲ走。師云、句ヲ。代、鹿角無縫罅。師云、直示。代、末直ニ云テ走。師云、句ヲ。代、眼横鼻直。師云、為人。代、夫レ々々成ツテ走。師云、句。代、達驢作驢、達馬作馬。師云、自性。代、千代若テ走。師云、句ヲ。了々常知。師云、色相。代、柳在緑花在紅テ走。師云、句ヲ。代、庭前紫面薇。衣。

臨濟宗血脈に関する切紙の写しである、「一条紅線」切紙によれば、臨濟が黃檗希運の会下で大悟した悟りの内容を「八種面目」として定立したと言つ。又、汾陽の示衆の語に、先師臨濟和尚に、八種面目が有つたとする。「八種面目」(八境界ともいう)は、臨濟宗における公案解釈、或いは公案体系の基本であり、林下大德寺派(大応派徹翁派下)では、語録抄や密參録において頻用される術語である。又、曹洞宗所伝の切紙の中にも、臨濟宗の公案の代表的な体系として、「八

種面目」が取り上げられる。

三、まとめにかえて

林下大德寺派における『碧巖録』の受容形態をしめすものとして、叡山文庫所藏『碧巖録抄』、大東急記念文庫所藏『碧巖録古鈔』、京都府立総合資料館所藏『碧巖録抄』の対照表を作成した。また、密參録の具体例として、大德寺派の二本天真文庫所藏本、松ヶ岡文庫所藏本、妙心寺派系統の『碧巖密參録』(松ヶ岡文庫所藏)、幻住派の『碧巖密參録』を取り上げ、やはり対照表を後に掲げた。これらの史料については、次稿においてその内容を中心に考察したいと思つ。

叡山文庫所藏『碧巖録抄』(天海蔵)の成立に関して略述して稿を終えたい。叡山文庫所藏本は、『碧巖録古鈔』と同系統の語録抄であり、或いはそれをテキストとした講義録(聞書抄)ではないかと推定する。

『碧巖録古鈔』における主要な解釈は、大燈國師(宗峰妙超)と徹翁義亨(靈山和尚)の説と、「後ノ先師」とされる春浦宗照(大弘禪師)と実伝宗真(養徳師)の説であり、これらの説は対比的に取り上げられることがある。

『碧巖録古鈔』に「先師」として引用される例が最も多いのは、徹翁義亨の説である。

(15) (上略) 此「先師ノ批判アリ。先師講衆曰、古人云、會

則途中受容、意旨如何。一僧云、滴水滴凍。一僧云、要行便行、要坐便坐。一僧云、万里一条鉄。師又曰、不會則世諦流布、意旨如何。一僧云、路從平處曠。一僧云、閑葛藤。師又曰、大光國師云、會則途中受用、移身不移步。不_レ會則世諦流布、移步不移身。作麼生會。衆皆不契。師還曰、汝問我、僧便問云、會則途中受用、意旨如何。師曰、歩々無蹤跡。僧云、不會則、世諦流布、意旨如何。師曰、作途作轉。僧云、畢竟作麼生。師曰、洞中山色四時好、雲外漢聲一枕寒。僧云、正當恁麼時如何。師曰、天無四壁、地絶八維。僧云、与麼則、水隔大海、雲収万岳。師曰、尚有求請。僧云、学人罪過。師曰、知過試道来。僧近前問訊。師不肯。師亦代曰、与麼則、洞中山色四時好、雲外漢聲一樣寒、汝會麼。僧云、會。師曰、拳看。僧不契。師亦問傍僧曰、汝會麼。僧云、會。師曰、試拳看。僧云、变則通。師トハ、徹翁和尚也。(第二冊、40オ)

ここでは、先師の示衆の語が引用されており、師とは徹翁を指すという。更に一例を挙げれば以下の通りである。

(16) 先師僧問、更有一 分付一 意旨如何。師曰、有_二什麼一 概_一。師曰、先師ト云ハ、凡ソ靈山和尚ヲ云リ。(第二冊、21)

ウ)

単に先師の説として引用される場合は、靈山和尚(徹翁義亨)の説であることが多く、その評価も概して高い。

(17) 須是參他宗派下、大光國師云、雪峯雖大宗師、争力

林際ノ手段ヲ知ヘキ、ト云々。大光云、不然。雪峯ハ、大作者ナリ。何不知林際ノ作略、但至四料簡ニ、聊墮落之処アルヲ思ワヘテソ、他家ニトヘト云ツラウ、又悪キ心アリテソ、他家尊宿ニ問ヘト云ツラウ。靈山云、両義共ニ不然。風穴ノ機用、臨濟家の傳タルヘキヲ見テ、他宗派下尊宿ニトヘト云リ、ト云々。師曰、南院云、雪峯古仏依此語看則、靈山之義尤殊勝也。(第三冊、46ウ、47オ)

上記の引用は、普照大光國師(通翁鏡円、一二五七—一三三四)、大燈國師の両説が挙げられており、そして両者を否定する徹翁の説を、講義者である「師」(抄者の直接の師に当たる)は最も優れていると評価している。

(18) 放過、圓悟ノ意也。一棒_ヲ与ントスレトモ、放ス也。南浦云、此批判不審也ト云ヘリ。大光云、不審マテモナイ、水裡月_ハナキコト也。見成ノ用ヒ也。又後先師ノ御沙汰ニ擲々忽々ハ、ワルイ方也。ソノ時ハ、平穩ニシ去ルコトハ、諸人アルマイ也。ソレナラハ、一棒_ヲ与ン也。放過ストハ、打意也。ワルイ方ノ時ハ、水裡月_ハ、ソテモナキ者也。擲々忽々、両意アリ。ヨキ方ト悪キ方トアリ。好方ノ、你若隨_ハ他ト云テキテ、擲々忽々、ト直旨為人シタ。擲々忽々ハ、悪キ方也。ソレヲ活処ニナシテ、水裡月ト見成ニ用ヒタル也。如斯受用則、平穩去也。無_二此用一則、不可平穩去。然則、可_キ与_二一棒云也。

放過一着トハ、隨^ニ他ノ語句ニ底ハ、不可得乎。平穩去故^ニ、可
打トガナレトモ、放過スト云義也。放過一着者打ト同意也。又
惡^キ方^ニ用ル義ハ、若隨^ハ他^ニ、正是擲々 ト云ハ、隨^ニ他ノ
語句ニ処^ラ、擲々忽々水裡月ト云也。水中月ハ、非^ニ真實ノ月^ニ、
虛頭也。真實ノ処ヲ不^ニ受用^セ故^ニ、隨^ニ他ノ語句^ニ、擲々忽々
タル也。水中月ノ如^レ不^ニルカ^ニ實有^ニテラト云也。如斯底ノ者ハ作麼生
得^ニ平穩去ト云也。故^ニ放過一着ト云也。後來大宗禪師之說也。
前ノ說^ハ、大灯ノ微翁說也。大應國師ハ、此批判不書也トハカ
リヲセラレタリ。大灯云、先師ハ不書ナトヲセラレタレトモ、
不書マテモナイ。落居見成之用ヒ也トヲセラレタ。吾養徳師、
此兩意ヲ批判曰、何^レニ優劣ナシトイヘトモ、如^レ道^下ノ圓悟^ノ不^レ
妨有出身之路、亦有^レ活^レ人^ノ之機^ト、則前ノ大灯之說尤宜乎。(第
二冊、32オ、33オ)

「後先師」とされるのは、春浦宗熙(松源院開祖、正統大
宗禪師)であり、「吾養徳師」とは、即ち抄者にとつての師
とは、春浦の法嗣実伝宗真を指すものと思われる。

(19) 子親、徳山ヲ接シテ、直指為人シタリ。徳山不悟故^ニ、
如此答。悟^リタラハ、如何答^ン、古今答話多シ。大應云、徒
踏破屨鞋、大灯ハ、一喝スヘシト云リ。靈山ハ、汝一問太高生
ト云ヘシト云リ。大用^ハ、知道般事便休^ク、且坐喫ト云リ。
大宗^ハ、汝托上老僧梵天那ト云リ。(第一冊、19ウ)
(20) 千聖跳、法身ノ上也。南浦、大灯云、法身ハヒロキ者

カナ。先師云、此句ハヨキ法身之答話也。漏逗、一問ノ上
ヲ云。法身ト問フ上^ニ、漏逗アリ。是モ好答話也。門云、六
。字面ハ、龜力六ヲ蔵セトモ、エカクシエ又也。サレトモ、
此ハ有子細。斬釘、六不収ノ境界也。簡要也。釘鐵ト撈ス
ル句也。八角磨、六不収ノ境界也。是モ、先師ノ云、着語
ノセウヨリモ、此句ヲ法身ノ答話ニシタラハ、好カルヘシト云
リ。此句、楊大年力頌ノ句也。僧問三等二物語此ニテアリキ。
僧問平等長老、八角磨盤空裡走意旨如何。等云、アトカタモナ
イソ。大用和尚曰、老僧不然、答テ云ンアトカタモアルソ。僧
云、意旨如何。曰、昨日モ見今日モ見ル。(第五冊、25ウ、26
オ)

(21) 且道將、此語ハ、剩語也。先師時曰、急^ニ下語来レ。
一僧云、君子愛財取之。一僧云、承ケハ言ヲ須ク會宗。師
不肯。代曰、過也。云スコシタ也。養叟云、一句道著ス。カウ
云タラハ、圓悟ノ意ニ合フヘシトヲセラレタ。(第三冊、13オ)
上記の例のように、旧説ともいえる大燈國師、微翁義亨の
説と、後來の説とも言うべき養叟宗頤(大用和尚)、春浦宗
熙等の説が併記されることがある。又、養叟の師である華叟
宗曇の説も散見する。

(22) 參得一句、是八別ニ子細アリ。先師花叟和尚云、是ヲ
參得セハ、大志ノ者テナウテハ、不可參得也。(第一冊)

後者の説は、「後ノ講」としても取り上げられる。

(23) 後ノ講談ニハ、打鐘敲枷者、折角諸訛ノ処也。此義是也。トヨムナリ。於ニ折角袋訛之処ニ、為人スルゾ。此義是平。(第二冊、1オ)

(24) 後ノ講ニ、師話曰、先師ノ垂示ニ、殺人不用刀時如何云々。子細アリ。可參。私、開事ト下語スヘシ。如此用タルコソ、不用刀而殺人底ヨ。私、百雜碎ト用ヒタルハ、用ヒ刀タル手段也。開事ト用ヒタルハ、不用刀而殺ス手段也。(第二冊、19オ)

(25) 直得穿過^{セヤ}第二人^ヲ。後ノ講ニ、此点ハ、大灯ノ御点トヨメリ。私、此点ハ直得^リノ字不穩、不審也。但大灯曰、總シテ語ヲ下ス思アエヲ尋見ヘカラス。只直^ニ可^レ見。凡語^ヲ下ス思アルノアルヲ不見シテ、スク目ニ見ルヲハ、話墮シ、義墮ストテ、袖僧不^レ用^レ之、云々。故ニ慈明囑黃龍云々。見別抄(25オ)

『碧巖録古鈔』は、旧説と後來の説とによつて成立していることを指摘したい。更に叡山文庫所蔵『碧巖録抄』は、それを更に増補したものである。この点については、『碧巖録』第一則を比較対照したので参照していただきたい。

註

(1) 金田 弘『洞門抄物国語研究』と資料(桜楓社、一九七七・九)

平野宗浄「大灯国師下語の研究(資料編)」、『禅文化研究所紀要』三、一九七一・一〇」

金田弘「国語史料としてみた国学院大学図書館蔵『木杯余瀝(碧巖口義)』」、『國學院雜誌』七四(一一)、一九七三・一二

同 右「叡山文庫と禅籍抄物 主として洞門抄物類とその性格について」、『國學院雜誌』八二(五)、一九八一・〇五)

柳田征司「臨濟系『碧巖録抄』の諸本について」、『愛媛大学教育学部紀要 第二部 人文・社会科学』二四(二)、一九九二・〇二)

安藤嘉則「『碧巖録抄』の諸写本について」、『駒沢女子短期大学研究紀要』三六(二〇三)

(2) 末木文美士「『碧巖録』の諸本について」、『禅文化研究所紀要』一八、一九九二・五)

拙稿「大東急記念文庫所蔵『碧岩録古鈔』について」、『曹洞宗研究員研究紀要』二四、一九九三・九)

(3) 金田弘「松ヶ岡文庫禅籍書目解題・稿」、『国語研究』一九七三・一一)

「問答体のカナ抄物 中世国語資料としての『密參録』」門參」、『国学院大学紀要』一三、一九七五・〇三)

安藤嘉則「徹翁派の密參録文献について 松ヶ岡文庫蔵資料を中心に」、『財団法人 松ヶ岡文庫研究年報』一六、二〇〇一

(4) 土井哲治「自戒集」の自戒」、『国語国文』五五(六)、一九八六・〇六) 平野宗浄「一休和尚全集 3 自戒集・一休年譜」(春秋社、二〇〇三・〇六)

- 拙稿「一休宗純研究ノート(二)」『自戒集』註釈(上)」
 (4) 駒澤大学佛教學部論集』三三、二〇〇一・一〇)
 (5) 拙稿『大徳寺夜話』について 養叟会下の記述を中心として」(『宗学研究』三四、一九九二・〇三)
 同右「龍谷大学図書館蔵『大徳寺夜話』をめぐって(一)資料編」(『駒澤大学禪研究所年報』一〇、一九九九・〇三)
 (6) 拙稿「禅籍抄物研究(2)」『大圓禪師垂示夜話』を中心として」(『駒澤大学佛教學部研究紀要』六二、二〇〇四・三)
 (7) 石川 力山「禅宗相伝資料の研究」上・下巻(法蔵館、二〇〇一・五)
 拙稿「中世曹洞宗における本参資料研究序説(3) 峨山関連抄物と円心寺所蔵本参について」(『駒澤大学佛教學部論集』三〇、一九九九・一〇)

(一)『碧巖録』密參録第一則四本対照表

<p>天真文庫所蔵碧巖録密參録</p> <p>第一、 梁武帝、問達磨大師、如何是聖諦第一義、</p> <p>下吾、金屑雖貴、落眼成翳、</p> <p>弁、聖諦第一義ハ、教家ノ極則最モ貴ヘキ処也、然レトモ、是、窟宅シテ居レハ、却テ、殃也、金屑ハ貴キ者ナレトモ、一点眼入レハ、俄ニクト成テ、眼力黒クナル也、武帝ノ、始テ達磨ト參會シテ、最初ニ是ヲ問ハ、常々窟宅スル故也、是弄精魂者也、</p>	<p>松ケ岡文庫所蔵『碧國密』</p> <p>一、拳、梁武帝問達磨大師、如何是聖諦第一義、</p> <p>下、向鬼窟裡作活計</p> <p>弁、聖諦第一義ト云ハ、武帝ハ教者チヤ程ニ、教意随分ト用ル事也、梁武帝ハ、教ニ墮テ、聖諦第一義ヲ向上ニ随分ト思テ問ハレタ、笑シキ事也ト、抑下シ心得ア、</p>	<p>松ケ岡文庫所蔵『碧巖録大休派密參録』</p> <p>一、拳、梁武帝問達磨大師、姓蕭名衍、句、惹禍来也、私百則始チヤ程ニ、拈シテ看、同、手把玉鞭、門、帝ノ達磨ニ問レタニ當テ</p> <p>如何是聖諦第一義、</p> <p>句、葛藤窟裡 来、聖体ヲ問當ル</p>	<p>松ケ岡文庫所蔵『碧岩古帆密參』</p> <p>拳、梁武帝問達磨大師、下吾云、手把玉鞭敲金門、</p> <p>如何是聖諦第一義、</p> <p>下ニ、葛藤窟裡出頭来、</p> <p>弁云、武帝ハ、教意ヲイカメシク思故ニ、教意ノ極則ニ、第一義ト問レテソコ、</p> <p>説話云、教中ニ説真諦ハ、属レ無俗諦ハ、有二属ス、真俗不二、是ヲ聖諦ト云也、(4オ) 故問テアルソ、</p>
<p>磨云、廓然無聖、</p> <p>下吾、無孔鉄鎚當面、又、有權有実、</p> <p>弁、達磨ノ胸中洒々落々ノ処ヨリ、何ノ思惟分別モナク、廓然</p>	<p>磨云、廓然無聖、</p> <p>銀山、</p> <p>弁、聖諦ニ當テ見ル也、根本ノ上ニ、何ノ聖諦ト云事アラソ、</p> <p>春私、太ヲ答ソ、</p>	<p>磨云、廓然無聖、</p> <p>句、白圭無瑕、同、和盤托出珠、</p>	<p>磨云、廓然無聖、</p> <p>下吾云、無孔鉄鎚當面擲、又、白圭無瑕、</p> <p>弁云、達磨、教意ヲ槌ニ擊破セラレタル也、本来無一物ノ竟界</p>

ト一声答テ、本有ノ仏性ヲ
擲出テミセタ、聖諦ヲ問ホトニ、
無聖ト答テ、機ニ應スル処ハ、
權也、内ニ仏性ヲ示ス処ハ、実
ソ、

帝云、对朕者誰、
下吾、強惺々、

弁、達磨ハ、是聖師ナリ、今答
ルノ処ノ如ク実ニ無聖ナラハ、朕
ニ對スル者ハ、聖師_テ無テ何ソ、
ト抄スル也、カシコカホニ云ホ
トニ、如此下語シタ、

磨云、不識、
下吾、兩重公案、又、有權有
実、
弁、始ノ如ク、本有ノ佛性ヲ、

又弁、廓然ハ、手ノツカヌ又処ニ
至テハ、至聖ハ無ト答テ、武帝
ノ見識、山河大地共ニ打破シテ
ノケラレタ、銀山鉄壁ハ、無、
物ナイ処ヲ下吾シタ、

帝云、对朕者誰、
下、鈍鳥飛逆風、

弁、前ニ太_(本)ヲ被答タラ不心得、
对朕者ハ何テ候ソト、太ヲ不心
得、相ニ着シテ云タハ、鈍ナリ、
達磨ハ、聖_テハナイカ、ト云心
ナリ、

又弁、廓然無聖ト、根本ノ処ヲ
答ラレタラ心得イテ、对朕達磨
ハ、聖_テハナイカト、前ノ見識
ヲ離イテ、鈍ナ達磨ノ答話ニ逆
シタ処、逆風ニ飛ソ、
磨云、不識、
下、突出難辨、又請益下、千聖
跳不出、
弁、帝ノ不知シテ云ハレタレト

帝曰、对朕者誰、

句、對面千里、私、師云、他二
八、對面隔千里、是アシ、他
二八、貪看天上月 珠、

磨云、不識、
句、黄金鑄出 嵩、此一阶段面
白シ、他二八、話尽山雲 情、
景二八、抄云、達磨モ不識_ラ時如

ヲ示ソ、廓然ハ、ホカラカ也、
無聖ハ、天地未分已前、凡モ無
ク聖モナキ本分底ヲ示サレテソ
口、
下吾云、無形本寂寥、又、無始
無終、

帝云、对朕者誰、

下吾云、對面隔千里、又、把頭
做尾漢、

磨云、不識、
下吾云、銀山鉄壁、
着語云、平生心膽向人傾、
弁、向上本分ノ祖意、不知不識
レハ、余義ナキ事ニテソ口、
弁云、無聖・無言句ニトリツイ
テ、無(4ウ)聖ナラハ、吾レ
ニ對シテ問答スル者ハ誰ト、人
我ノ見ニテ、本分ト色相ヲヘ
ツ、ニ見テ云テアルソ、教者ナ
レハ、余義ナキ事ニテソ口、

重テ一覽擲出テ示スホトニ、兩重ソ、對朕者誰、ト問タ処ニ、不識、ト答テ、誰ヤラ其ヤウナ事ハシラヌ、ト云テ、機スル処ハ、權也、内ニ仏性ヲ示スハ、実ソ、

帝不契、
下吾、果然
弁、年月禅法ヲ問狎タリトモ、容易ニハ心得マイソ、増テ教意ニ窟宅シテイル人力、禅法ノ最初ニ

モ、誰ト云ヲ太ノ方ニ取りナイテ、不識ト答ラレタ句ノ心モ、難弁ト云イ、跳不出ト云タ、太ニ用タ、
又弁、廓然 ノ処ハ、佛祖モ難知ナリ、又、天下衲僧力、跳タリ共出マイソ、
又弁、誰ト問タ誰ハ、(一ウ)シラヌ、知ラヌ処ハ、難弁ソ、太為人、
師云、達磨ノ不識ト答ラレタ上ニキズアリ、如何、
答云、林際・徳山ノ手段ナラハ、一喝スル力、一棒与ルカテアルヘキヲ、鈍ナル振舞ヲセラレタ、又不識ノ処、江下、天下衲僧跳不出、又、黒蛇横古路、

帝不契、
下、可惜許
弁、爰テハ、心得サシタイ処手ヤ、

何、平、不識ノ中有識、撈云、作麼生是不識之中ノ識、平、不識(一オ)最親キソ、句、話尽山雲 情、又、移花兼蝶至、
悟、紫羅帳裡 珠、

帝不契、
句、龍与青龍不解騎、垂、本分ノ手繩ヲ以明ス 此ニ一段面白シ、又、捧上不作龍、又它、把不住、是八頌ノ小着語 又、分

ノ処ヲ示ソ口、

帝不契、
下語、果然摸索不着、又、滞句者逆、
弁、アツタラ達磨ヲ取ハツイテアルソ、マツサウヨ、教意、腹

<p>出会テ、心得又ハ、餘義モナイソ、</p> <p>達磨遂渡江至魏、 下吾、魚行水濁、</p> <p>弁、武帝ノトテモ契マイ事ヲ知テ、魏^(東)行也、意^(東)武帝ヲ至極見カキリツメタレトモ、是非ノ沙汰ヲモセス、行処ヲ水濁ト云々、魚ノ跡ヲクラマス如ソ、</p> <p>帝後拳問志公、 下吾、貧兒思旧債、</p> <p>弁、達磨ト契ハ又コトノ落着ヲシラヌホトニ、志公^(二)問也、 又下吾、水母無眼、依鯢以照、</p>	<p>達磨遂渡江至魏、 下吾、魚行、</p> <p>弁、此句三句カ備ル也、太・見・貝^(魚)三也、此レカ、衲僧貝ノ始ト、先師ノ沙汰也、面ハ、何ノ道リモナウ、魏ニ至タヤウナレ共、兩三度マテ色々ニ為人スレトモ、不心得程ニ、上ハ、又ラリト魏ヘ行カレタ、又、魏國ノ人ヲタブラカソウトテ、行タナリ、衲僧ハ、人ノ心得又事ヲ、シイテ為人(2才)セヌ物也、</p> <p>帝後拳問志公、 貧兒思旧債、</p> <p>弁、前ニ心得又ニ依テ問也、貧者乃債ヲ思如也、 又下、一回拳着一回新、</p> <p>弁、教者ノアサマシキハ、達磨ノ色々為人スルヲ、不心得、後</p>	<p>疎不下、</p> <p>達磨遂渡江至魏、 句、歩々清風起、脚痕^(男)ニ眼力アルソ、他、眼看東南、北、</p>	<p>帝後拳問志公、 句、見之不取、思之千里、他、見之不取、後^(二)アリ、千歲難違、又、一不成ニ不休、</p>	<p>帝後拳問志公、 中ニハ摸索シエマシキソ、不契コソ、道理ヨ、ト(5才)托上シテ、底ハ抑下ニテソ口、</p> <p>達磨遂渡江至魏、 下吾云、歩々踏清風、 弁云、刹竿倒却ノ上、本分底ヲ示サレテソ口、</p>	<p>帝後拳問志公、 識此人否、 下吾云、同坑無異土、 弁云、此人ハ、達磨ヲ云テ、別ニサシ処アル也、</p>
---	--	--	--	--	--

<p>志公云、陛下還識此人否、 下吾、咲呵々、 弁、志公ノ知タフリシテ、如此 云ハ、ヲカシイコトソ、</p>	<p>帝云、不識、 下吾、款自囚人口出、又、似則 似、 弁、底カラシラヌホトニ、アリ ノ假ニ白状シタソ、達磨ノ不識ト 云ハレタニ、ヨク似テ非也、 志公云、此是観音大士、傳仏 心印、 下吾、品藻人即得、 弁、達磨ハ、観音ノ應化也、仏 ノ心印ヲ世ニヒロメン為ニ来ル ト云也、人ヲソシルコトハ、自 分ノ力量カナケレハ、ナラヌ者 也、人ヲホメソヤスコトハ、誰 モスル者也、志公カ、真実達磨</p>	<p>誌公ニ問テ、後悔シテマワル也、 志公云、陛下還識此人否、 下、落草、 弁、志公ノ達磨ヲ知ラヌカト出 レタハ、為人也、志公ハ、慈悲 親切也、</p>	<p>帝云、不識、 下、似、是、 弁ハ、達磨ハ不識ト、本分ヲ被 答、武帝、只何ヲモ不知、不識 ト云ワレタ、武ノ不識、達磨ノ 不識ノニ似テ不似也、 志公云、此是観音大士、傳佛心 印、 下、月白風清、 弁、一(2ウ)兩意ヲ兼テ、達 磨ハ、観音化身也、観音大士モ、 佛心印モ、何ト云道理モ無イ処 ヲ下吾シタ也、志公ニ、達 磨ニ契又呈ニ、一向ニ教家ヲ立 テ、達磨ハ殊勝ニ思ハセウトテ</p>	<p>志公云、陛下還識此人否、 句、大煞瞞人、又、欺胡瞞漢、 磨ヲ指ス、佛ヲ指ス、它、瞞人 不少、又、打草唯要蛇驚、又、 同坑無異士、又、万里絶(1ウ) 同侶、 帝云、不識、 句、款出囚人口、他、當局者迷、 又、實頭人難得、又、漆桶不賣、 又、初心難改、</p>	<p>志公云、此是観音大士、傳仏 心印、 句、狐狸難藏本形、它、傍観有 分、又、一隊野狐精、</p>	<p>帝云、不識、 下吾云、借路經過、 弁云、達磨ノ不識トハ、白雲隔 万里タル事ニテソク、</p>	<p>志公云、此是観音大士、傳仏 心印、(5ウ) 下吾云、賺殺一般人、 弁云、志公、シリタリ顔モ、何 テモナイ事ニテソク、但月在青 天水在瓶トモ、又ハ、日出月没 トモ見テ、ヨクソク、</p>
--	--	--	---	---	--	---	---

<p>ヲ知ラレストモ、品藻スルコト ハナラウソ、 帝悔、遂遣使去請、 下吾、見之不取、思之千里、 志公ノ褒讃スルヲ聞テ、後悔シ テ請セントスル也、 志公云、莫道陛下發使去取、 闔国人去、佗亦不回、 下吾、大象不遊兔徑、 弁、志公カ、ヨク云ハレタソ、 達磨ト武帝トハ、類カチカウタ ホトニ、一國ノ人カ、打ウツイ テ迎ニ行クトモ、達磨ハ再ヒ回 ルマイソ、</p>	<p>云レタ、佛ノ境界、觀音ノミナ ラス、諸佛共道理ナキ也、 帝悔、遂遣使去請、 下吾、見之 里、 弁、志公ニ云ワレテ、後悔シテ、 請イタイト後ニ思タナリ、 志公云、莫道陛下發使去取、闔 国人去、佗亦不回、 下、三生六十劫、 弁、上ハ、達磨ハ三生六十劫フ ルトモ、回ルマイ、ト云心也、 底ハ、太ハ三生六十劫フル共、 動着セ又物チヤ呈ニ、天下ノ人 カ、去テ呼共回ルマイ、ト云タ 心也、句心ハ、三生六十劫トマ ツスクニ(3オ)見成ニモ用ル 也、一生ト云ハ、廿劫也、合テ 三生六十劫也、 又下、大象不遊兔徑 弁、大象ハ、達磨ソ、兔徑ハ、 武帝ソ、兔ノヤウナ物ノ透ル処 ヲハ、大象ナトハ不透者也、鈍</p>
<p>帝悔、遂遣使去請、 句、望空啓告、是八頌小着語 又、見之不取、思之千里、又、 賊過後張弓、 志公云、莫道陛下發使去取、 句、放過一着、一棒打フ処ヲユ ルシタ、它、官不容針 馬、 又、扶強不扶弱、 闔国人去、他亦不回、 句、天鑑無私、悟、露个面目、 私云、聖諦、真俗不二ノ処、第 一義也、仏諦ト云義、廓(2オ) 然ハホカラカニ露レタ義ソ、廓ハ 聖心キラリトシタ、</p>	<p>帝悔、遂遣使去請、 下吾、見之不取、思之千里、 志公云、莫道陛下發使去取、 闔国人去、他亦不回、 下吾云、呼喚不回、羅籠不住、 又、今日橫古路、拜</p>

ナ教者・法師ノヤウナ者カ、呼共、再ヒ回マイ、ト云心也、他亦不回トハ、他ハ、太ヲ用タ、其太ハ、再ヒ不廻者也、三生六十劫ナリ、相見モナラヌ者也、上ハ、太ハ達磨ヲ指テ云タ、請益別本ニ有之、同前

評ノ中ニ云、達磨初見ニ武帝ニ々問、朕起寺度僧、有何功德、
句、兩眉擔來、又他、向鬼窟裡計、向ノ事ヲ問タ、乘云、寺ヲ起功德當ル、向ノ事ヲ問タ、

磨云、無功德、

句、和盤托出夜明珠、本分二本分ヲツツヘタ 又、倚天長劍寒、本分ノ機用、又、都盧一團鉄、 八、都合ノ義、它、黄金鑄出 嵩、又、万里一鉄、私云、磨ノ功德ハ、趙州ノ無ト云ワレタモ、同事ソ、

百不會百不知ノ処ヲ直答ヘラレ
タ、

頌云、聖諦廓然、

平私云、是レハ、放夕方チヤ、
聖諦ヲ廓然ト答ヘラレタモ、マ
ダ此事ノ端的デ無イソ、句、奪得
宝(2リ)珠村裡賣、又、黄金
亦是知沙賣、

何當辨的、

平、此事ノ端的ヲハ、仏祖モ弁シ
カタイソ、句、攬奪行市、亦、
奪得宝珠 賣、
私云、此事ノ端的ハ、是ハ放夕方チ
ヤ、

聖諦廓然、何當弁的、

平、聖諦廓然ノ端的ヲハ、仏祖モ
難弁ソ、

句、描不成画不就、撈云、畢竟
如何、句、不識

(二)『碧巖録抄』第一則三本対照表

<p>叡山文庫所蔵『碧巖録抄』</p>	<p>大東急記念文庫所蔵『碧岩録古鈔』</p>	<p>京都府立総合資料館所蔵『碧巖録抄』</p>
<p>一、</p>	<p>垂示云、隔山、隔墻、涅槃經十七アリ。凡八、以レ体知用マ、是八以レ用知レ体也。大光、從淺至深、自レ妄入レ真、以テ言句ヲ知ニ真実之處ニ義。大應伝、一機一境。大灯云、山青水緑、共ニ見成也。師曰、凡ソハ、利根ナル用処ニ見タガ、好カルヘキ也。拳一、目機、利根ナ用所也。ハカリニカケズシテ、朱兩ヲ弁スル也。私達磨ノ帝ノ機ヲ見テ作タルヲ云、衲僧家、上ヲ決スル也。</p> <p>私、尋常ノ茶飯ト云マテハ、達磨ノ上ヲ云歟。至於截、是ヨリ以下、雪豆ノ頌ノ上ヲ云乎。至於截、宗師為人ノ境介也。正當恁麼、為人手也。看取雪豆、先師云、此テハ、達磨ノ公案ト云ヘケレトモ、頌スル故ニ雪豆ト云也、同コト也。又云、雪豆、二字ヲ削ルヘキ乎。私、此垂示ハ、二段ニ見ルヘシ。(2オ)茶飯マテハ、達磨ヲ云</p>	<p>垂示ハ、下示学者、故曰垂示也。指示下卑於我者也。</p> <p>隔山、涅槃經文也。下有以レ法相宗ヲ作レ抄、不知境界也。只言當面而已。見レ烟知レ火ヲ、見レ角ヲ知レ牛底ノ漢ハ、拳一隅ヲ知三隅、曰ニ拳一明三ト也。不レ用レ秤子ヲ、而以目一視シテ、心内機已定ニ鉢兩ヲ、断ニ物之輕重ヲ、曰ニ目機鉢兩ト也。従上ハ皆靈利ノ衲僧器用也。如是之等、未レ為レ十分ト、只衲僧尋常利根者也。茶飯ハ、平実之事、平実之事也。唐人ハ、飯之間ニ喫レ茶ヲ也。至於ハ一重高也。截断衆流、不レ留レ跡ヲ処也。雲門之第一句ノ名也。東湧西没ハ、凡六種震動之中也。今取自由自在ヲ、不レ滞レ一処ニ之義也。逆順、大用現前、不レ存レ軌則之境界也。是迺非常之手(10オ)段也。正當、此様時也。且道是什麼人ハ、謂達磨也。看取雪豆、拳ニ達磨古則之言句ト也。看ニ雪豆頌、而可レ知ニ達磨行履</p>

舉、梁武帝、說_ク這_ノ不_レ啣_ハ漢、コノ
 点ノトキハ、漢ハ雪豆ヲ云、說_ク這_ノ漢、コノ
 ノトキハ、漢ハ武帝ヲサス、說_ク八雪豆也。
 師云、不_レ啣_ハ、キタナケナル事ト云也。
 又ハ、鈍也。不_レ淨潔ノ方語也。又、不成就也。
 又ハ、無分曉ノ義也。此句ハ、達磨ニモカ、
 リ、武帝ニモカ、ル、上_レ八_レ抑_下ナレトモ、下
 二_レ八_レ付言直示シタ。如何是、是甚、上
 ト同、ナニテモナイコトヲ云ル也。上_レ八_レ抑
 下、下_レ八_レ直示也。是字ニテ直示也。上_レ八_レ武帝
 ノ教意ヲモツテ云タハ、驢ヲクヒニツナイタ
 ヤウナ、字_ハ八_レ徳山、(15オ)語也。磨云、
 灯_下云、処一_レ所不知名、又云、遂不_レ影畫不成
 廓然、面前アルヘシ。將謂、巴吾、力量ヲ
 出イテイハレタ。達磨ハ何タル奇特ナ事ヲモ
 イハウカト思タレハ、サシタル事モナキ也。
 先師云、巴吾ノ心ニハ、達磨ハ、平生八_レ帝特
 ト思タレハ、不然ト云也。又ノ義ニ、諸人ハ

以下ハ、雪豆、頌云。ソノ時ハ、雪豆ノ二字
 勿論ナリ。

古、說這、ノ、兩点、不_レ淨潔ノ義。
 又鈍漢ノ義。又不成就也。或無分曉ノ義。達
 磨ニカ、リ、武帝ニモカ、ル、上_レ八_レ抑_下シタヤ
 ウナレトモ、下_レ二_レ八_レ直指也。是甚、上
 八_レ抑、底_ハ就_レ語ニ直指也。是字ニテ直指
 也。廓然、無聖ノ剩語也。同意。廓然ハ
 面前アルヘシ。將謂、ホメタ義。奇特
 ハ、廓然無聖ノ落居ヲ奇特ト用フ。一說、奇
 特力有_レント思フタレハ、何、奇特モナキト云義。
 廓然ノ上也。有一_レ尼問_大灯云、サテハ、
 奇特ハアルマイ者カト問タレハ、廓然無聖ノ
 上_レ、直_ニ奇特トモ看ヨトヲセラレタ。是ハ
 ムカヘニ應シテセラレタソ。箭過、
 先師云、此句ニ下語ヲセハ、駟馬難追ト云ヘ
 シ。廓然無聖ノ落居也。可_レ敘明、廓然之
 落居也。對朕、以_レ人我見_ニ云タ。滿
 面、抑也、武帝ヲサス也。強_レ惶、
 ヲウテヨウヌカラ、シタ如キ也。伎倆カマシ

之処也。

舉、梁武帝、聖諦ハ、詳_ニ于下評、教
 三_レ有四諦度_レ四教_ニ也。第一義亦有_レ四也。此
 時武帝ハ、參_レテ教者、未_レ知_レ禪、故磨云
 廓然、ト、削除也。有_レラント甚_レ麼_レ聖諦_カ、沒_レ滋
 味_ニ答也。帝曰、對朕、ハ、達磨豈_ニ聖者_也。
 達磨非_レテ而誰哉。磨云、不_レ識、截斷_シ答也。
 不_レ答問頭之上_ニ、不_レ言_レ識_不識_一、只沒_レ滋味
 答也。於_レ是、帝不_レ契也。達磨遂、不_レ接
 入_レ故、渡_レ江_ニ去也。帝後問_ニ宝志_ニ、識_ニ此人_一、
 否_レ言_レ識_ニ如何_レ様_レ之人_一否也。達磨ハ觀音也。破
 三_レ帝_レ滞_着スルヲ於_レ教_ニ故、磨掃_レ絶_レ而答也。帝悔
 ハ、信_ニ殊勝_レ之人_一、欲_レ遣_レ使_テ請_レ之_ヲ。志
 公、雖_ニ一朝_レ之人_一、皆行_テ而請_{トモ}不_レ回、
 況使者一人哉。
 着語
 說_ニ這_ノ不_レ啣_ハ漢、說_ニ這_ノ不_レ啣_ハ漢、如是
 讀_レ則指_レ雪豆_ニ而非也。不_レ啣_ハ指_レ武帝也。
 說_ニ字_レ就_レ雪豆_也。言_レ說_ニ這_ノ不_レ啣_ハ爲_レ什麼_レ之心_也。

奇特ト思フント也。又八直^二多少奇特ト思ヘリ。一尼問^三大灯、サテハ奇特ハアルマイカト。師云、廓然無聖^一上ヲ奇特トモミヨト、是ハ向ノ氣ニ應シテヲセラル。又説、奇特ナキ処^ラ、奇特ト用。箭過、不知落処^レ、方語也。又云、遠而遠ノ方語也。此語頌^レ、処ニアリ。蜀本二八、コ、ニハナイホトニ、削テヨカラウカ。先師云、此句^二下語ヲセハ、四馬難追ト云ヘシ。廓然無聖ノ落居也。可煞、師云、無生ノ竟界也。此兩句ハ、廓然無聖ヲ注破スル也。或義^レ、廓然無聖ヲ圓悟^レ、眼力ヲミレハ、クモリカクレモノナイヲ、ナセニ武帝ハ、不悟耶。帝云、對朕、無聖トイハレタ程^ニ(15ウ)ヤカテ言句ニトリツイテイワレタ。無聖ナラハ、我ニ對シテ問答スルモノハ誰ソ、ト云也。以人我見云々。灯云、跬過亦不知。又云、把頭做尾漢。朕ハ我也。慕始皇廿六年、初^テ為^レ天子^ノ之稱^ト、滿面、抑也。耻カシイ時^ニ、面^ニ赤^クフナル兒ソ。武帝ハ、耻ヲ知又モノカナ、ト云也。強惶々、惶ハ了惠兒、又悟也。靜也。武帝、随分ト思テイハレタ。鈍痴漢ノ利根タテスルヲ云也。

イト、武帝ヲ云。磨云、不識云々。(2ウ)打テノケウスル処ヲ、落^テ艸^ト不識ト云故^ニ咄シタ。先師云、今日横古路。咄^ニ三句アリ。不直半、廓然ト不識トヲ、再来ト云。又武帝ノ兩処ニテ不悟処ヲモ云。同^ハ達磨^ニカケタガ好ソ。却較、以^ニ死^レ処^ニ作^レ活^レ処^ト也。私^カ契^フスルコトガアラハヤ。渡江至魏、大事ノ処也。難參。這野、上八達磨^ヲ抑^ス、底^ハ讚歎シタ。一場、ハチヲカイタ。大灯云、ハチヲカ、セ又様二八、何ント云ソ。雨下地上湿。又^ハ達磨^ハ喫茶、達飯喫飯ト云ヘシ。從西、マツスクニ用。是モ達茶喫茶之義。先師下語云、要行、要坐。或達茶。貧兒、帝ヲサス。傍人、志公ヲサス。和志公、達磨^ト志公トヲ云。圓悟^ノ意也。好与三十、先師云、此棒^ハ、志公^カ喫^スヘキカ、武帝ノ喫^スヘキカ、達磨ノ喫^スヘキカ。又好棒力、惡^キ棒^カ。師云、志公^ノ喫^スヘキカ。達磨^ノ来也、可^ニ下^レ語^ス。先師云、雲門ノ釈迦老師来也ト同心也。却、却^ニテ^レ可見、武帝ヲ扶ケタ。大灯云、扶力イ

不啣^レ啣^ハ、スル^レトモナイ、根本之作字溷溜也。言ハ、溝水之曲、而不直之義也。作^レ啣^ト、虫鳴声、(11オ)言^テ滯^レ教^ニ武帝^ヲ為^レ什麼哉。是甚緊驢^ノ概、言武帝以^ニ第一^ノ義^ニ為^レ至^レ極^ニ、而滯^レ着^レ故、曰緊驢^ノ概也。指第一義也。將謂、達磨殊勝^ノ故、定可答奇特之事トヲモウタレハ、サシタルコトモナイソ。箭過、射過也。過了達磨廓然無聖不過了也。蜀本刪箭、語可也。可煞、サウ^レトシテ、又ツシキソ。不滯也。滿面、人前有耻辱、面生赤色。武帝ハツカシイコトヲ云々。強惶々、不知之事ヲ知タリ、カウラセラレタ、トコホトヲ知聖者哉。果然、繫于下之語也。不識之下着語也。着語多此類也。此語就武帝難解也。達磨不識之下、武帝治定チリハツサウト思タレハ、果然也。咄有正咄、有邪咄也。邪咄破学者之見解也。今正咄也。達磨分上什麼邪咄哉。咄、達磨不識之高処、而掃絶也。再来、以前已對廓然無聖、今再對不識、而終不接人帝故、不直半文錢也。句中高也。無一物之処也。句面抑下、句中托上也。可惜許、善物ヲトリハツイタ心ソ。ア

師云、對朕者誰ソト、心ヲ八知イテ、好語ヲ云イ出ス程ニ、強テ惶々也。強テ惶々トハ、酒ニ酔タル者ノ、不醉氣息スル義也。武帝ノ達磨ノ心ヲハ不會シテ、伎倆カマシケニ問タソ。果然、果然ハ、サレハコソ也。武帝ハ心エマイト思タレハ、果シテ心エヌソ。横察、ハ、ヨツテモツカヌソ。師云、是ハ一向ニ武帝ヲ抑下スルニアラス、落処ヲ直示也。磨云、不、灯下云、無孔鉄槌。咄、ツタナイ心モアリ。又ハ、シカル心モアルソ。師云、是ハ不識ノ境界ヲハ、拂絶シテノクルヲ、打テノケウス処(16オ)不識ト云タホトニ、又不識ノ境界ヲ見得シテ、咄シタソ。故ニ先師下云、今日横古路、向イ達テ咄スル也。再来、前ノ廓然無聖テ心得又モノニ、何ノ用ソ。又重テ不識ト云テソ。佛國云、再来スト毛半文錢ニモ不直、大灯モ此義也。再来ハ、廓、不識也。廓然不識ノ処ミ、踞過スルヲ云、是ハ達磨サス。又ハ武帝ニモカ、ルソ。字ハ、白雲端上堂ヨリ出。帝不契、此ヨリ八事跡ヲ云。然トモ、一々下語シテ、并シテシルコト也。灯下云、滞句者迷、又云、封ス

ハアルマイ。胡乱、志公ニカ、ル。臂膊、スク目ニ云タルヲ、向テ道フ、私、向テ道トモ見ルヘシ。打頭ニ説道不啻漢ト云タルヲ云コトナリ。已前モ今モ(3オ)不啻ト云也。東家、達磨ト志公ト知音ノ用也。也好一時、圓悟ノ意也。志公ノ如此云ヨリ、帝ニ此棒ヲ与テヨキ処也。私圓悟ノ意カラ、磨ニ此棒与シコトハ、勿論也。志公ニモ三十棒ヲ与シモノヲト云乎。不知、不知、諸人力不レ知也。達磨、志公ノミナラス、人々脚跟下放大光明也。一僧云、掛在面前。一僧云、豈唯三人ノミナランヤ。三人ハ、志公・達磨・圓悟也。先師代云、今日横古路、漏逗也。又云、落処哉々々々。

ツタラモノヲ。ヨイ不識ヲ、不會コ。却較不契ト云ワレタカ、チツトヨイソ。本来有甚麼悟哉。道野、ヨソロシイフルキツ子、句面抑下、句中托上。不免、一場、一番也。一度也。懷懼ハ、チカクソ。(11ウ)不接得武帝去、大耻也。從西、句面從西竺至梁從東、從梁至魏也。句中達磨得自由三昧不滞一処也。貧兒、貧者有債、未償、恐其催促。片時不忘也。言武帝之不忘達磨也。傍人、武帝無眼不知、志公傍人而有眼、知達磨也。知志公、達磨已去梁至魏、不待趕出、句之心、知達磨趕志公也。志公ナンテカアルラウ、云ル、ホトニ、趕出タラハ、ヨカラウス。好与、与達磨乎、与志公乎。今与志公也。志公スチナキコトヲ云ル、ホトニソ、罰棒也。達磨来也、趕出志公達磨而後、人々分上、真實達磨可来也。有西竺達磨則自己不立也。カツハララ趕出テ、立自己也。却是、武帝不識、承當達磨不識也。マツ同辞也。ヨクイワレタソ。胡乱、トコカ觀音、トコカ仏心印テ、指注スルソ。胡乱ナコトヲ云ワレタソ。臂膊、誰人臂膊

這、漆桶^一。可惜、許アツタラ事ヤ也。師云、事不契処ヲ云、又直示也。却較、師云、落処也。帝、不契処、却較^二些子^一、以^二死処^一作^二活処^一也。カナハウスル事カアラハヤ、巴音ノ心也。達磨遂、大事、參也。灯下云、歩々蹈着清風。又云、自西自東、一片白雲、這野、達磨力人ヲ侵シマハル也。上八抑下シテ、下八贊嘆スル也。又直示也。又云、野狐精ハ、廓然、不識ヲ云也。ハケ物テ^一ヲル也。(16ウ)不免、麼羅ハ、駙ヲカイ夕。是モ上八抑下^一ハ托上也。大灯云、駙ヲカ^一セヌヤウニハ、ナニトイハウソ。雨下地上濕。又云、達茶喫茶、達飯喫飯ト云ヘシ。從西、是モ、抑揚カアルソ。又ハ、直ニモミヨトナリ。師云、脚跟郎當シタルナリソ。東西^二奔走シタル体也。自西天来^一東土、初^一見^二梁王^一又渡^レ江^一至魏國。不^レ免^二懽懼^一、郎當スル也。雨下地上濕ト可見也。先師下云、要行、要坐。又云、達茶。帝後、志公ハ、梁ノ宝誌和尚ノコト也。昔鷹^一巢中^二有孩児声^一夕ホト^二怪ク思テミタレ^一ハ、果^{シテ}有^二孩児^一、即收取テ養育ス、即此

不向外曲也。達磨是觀音、志公是觀音、根本同一色、吾家事故、カタラシテ云ソ。非外之他人事也。誰力臂毛外エワヲレヌソ。同類故、鼻廣而助達磨曰觀音也。果然、把不住、エコラエヌソ。聞曰觀音、エコラエヌシテ、可遣使ト云也。向道、已前曰不唧噥、今又曰不唧噥、又指武帝也。(12オ)東家、東家人死、言武帝不契也。西家人助哀、言志公也。也好、也字承上、向己趕出、今再趕出故、云也好也。承上和志公趕出也。然則、趕出志公与達磨乎。若東家西家之語、趕出武帝与達磨也。或説曰、一時、達磨・志公已前趕出、今又一時云者、武帝・達磨・志公三人俱趕出也。志公也好、向己与三十棒、今又与故曰、也好也。由是觀之、向之三十棒、与志公必矣。不知、趕出達磨・志公、而後人々脚下、放大光明也。或曰、志公不知人々脚下有達磨、林下之義曰、達磨不回甚好、是即放大光明也。人不見之也。古則批判、達磨、先言祖師西来意也。此土、震旦也。大乘根器、教外別傳、宗旨之根機也。得々、

人也。灯下云、日月麗天、盲人摸_レ地。又云、貪看天上月、失_二却掌中珠_一。貧士 帝ヲ云也。遂_二難_一忘却也。字出_二涅槃經_一。己前ノ達磨ト云人ハ、イカヤウナル人ソト、志公ニ問タハ、思旧價_二ヤウナソ_一。傍人、志公ニアツテ云、志公云、陛下ハ天子ヲ云直ニ帝王ニ物ヲ申スコトハナイホトニ、禁(17才)裏ノ階下_二候スル人_一ニ物ヲ云義也。此人トハ、達磨ヲサス。灯下云、憐兒不覺鷗。知此人否ト云処ニアツテ云々。達磨ヲ趕出スツイテニ、志公ヲモヲイイタサウスモノヲ。先師云、此棒ハ志公可喫耶、達磨可_レ喫耶。誰力可喫ソ。又云、ヨク打力惡フ打力。字ハ徳山ノ小參ヨリ出ル。達磨来也。師云、此人ト云ツイテ、達磨来也ト云也。皆下語セヨ。直示ノ心アリト云ニ、或義ニ、志公ト達磨ト同意シテ云ホトニ、重テ達磨_レ来ルト云也。非也。帝云、不識。灯下云、可痛可悲。又云、皮下無血。却是、達磨_レ云コトクニ、不識ト云ホトニ、承當スルト云也。上八楊_下八抑也。却字ヲヨクミルヘシ。大灯云、帝ヲ扶タレトモ、扶カイハアルマイソ。志公云、

ワサ_レ来也。單傳、破誇宗所立、但傳一心法耳也。開示、明開學者所述也。不立、是即單傳心印也。若恁麼、觀人之見得、如從上單傳、見得、則學者使自由三昧也。直指自己人心、見心之自性即仏也。別無他仏也。如是見得、則無所拘也。不隨、不立文字故不傳也。脱體、裸体也。絲不掛処也。歎直指也。(12ウ)至此言、達磨来意也。便能、言餘機緣也。後頭指与武帝對談也。先頭即直指人心、見心成仏也。己見性成仏者、則知後之与武帝問答、并安心之処也。指單傳心印為最初、指對談安心曰後頭也。見性成仏之學者、於對談安心、自然見得、有什麼、計較、皆不立文字也。一万、洒々、サワ_レトシタ、落々、カ、ワラサルソ。何必、頭々無碍、雖是非得失処也。雖然、言學者、如上見得少、惟達磨一人也。不可有多學者如是之機也。武帝、平日武帝尊法也。藏經無此事也。或曰有之、有乎無乎。圓悟豈有虛說哉。且讀碧岩集、則可本圓悟之批判、更不可生疑也。不二曰、未見講般若之機緣。海門曰、有之也。度

此是、灯下云、日出月没、又云、月在青
 天水在瓶、胡乱、志公力知タリ顔ヲシテ、
 ナンテモナイ事ヲ云也。臂膊、観音大士傳
 佛心印ト云心ナリ。直_二可見。マツスクニ云
 夕。帝悔、灯下云、迷已逐物。又云、
 (17ウ)見之不取、思之千里。果然、観
 音大士チャト云タレハ、驚テ使ヲヤツテ、ヨ
 ハウトセラル、ヨ。故云、果然也。達磨ヲ
 ハ、帝ノ力テハ、不_レ可_二把住_一。向_テ道
 円吾ノ心也。我若志公テアルナラハ、其トキ
 武帝ニ向テ、不_レ啣_レト云ンモノヲト云也。或
 云、向_テ道_ヲト、前ニモ、武帝ヲ不_レ
 云タハト。志公云、莫道、灯云、提不起。
 又云、呼喚不回。東家、知音也。東家人
 ハ達磨、西家人、志公ソ。字八傳灯寒山章ナヨ
 リ出ルソ。同病相憐ノ義也。志公ト達磨ト同
 類チヤ程_ニ、展_レ扇シテ云タ。也好、円吾
 ノ心也。達磨ヲライ出タヤウニ、志公ヲモ
 一_度ニ_キ趕出スモノヲト云也。イタカナコトヲ
 云ホトニト、前ニモ云タホトニ、也好ト云也。
 闍國、一國ノモノカ、卒シテ喚トモ、達
 磨ハ、飯_ルマシキ也。灯云、劈不開。又云、

僧、度牒也。仏心天子、梁本紀不見此語、
 飯仏崇法故云尔。不必有拠也。達磨初見、
 言与帝問答也。早是、評也。惡水、
 以糞水澆頭也。指無功德之言、アタマクタリ、
 クソミツヲカケタ。惡水、非惡之方、好
 之方也。且道、徵起也。在什麼処、令近見也。
 在當人之上、直指也。帝与婁約、婁約戒
 師、傳大士俗、昭明ハ、武帝之子也。持論
 、真諦、大乘菩薩、假諦、小乘聲聞、圓
 悟除真俗二諦、立中道(13オ)第一義、明二
 諦、非有無、非無有也。不度真俗之二、曰中
 道第一義也。崇明教、於真俗二諦之中、以真
 諦為第一義也。第一義者、教家至極之処也。
 天下衲僧、圓悟一句之評語也。雖衲僧、
 跳得不出。達磨与他、以下判語也。一刀
 、以廓然無聖之二刀、截断殊勝邊也。如
 今、以嫌學者邪解也。精魂、無明煩
 惱也。瞪眼、張目而瞠去。廓然也。便人
 無論難之用也。且喜、揚而落之語也。ヨイ破
 家ト云心也。没交涉、ヨツテモツカマイソ。
 与此道遠而遠也。五祖先師、演禪師也。圓悟
 之師故、避諱曰先師。一等、マツ同様也。當

羅籠不住。志公也、円吾、心也。已前ス
 テ三十棒ヲ与タホトニ、也好ト云也。志公
 如此イハンヨリ、三十棒ヲ与ヘテヨキ処也。
 又義、達磨ニ、三十棒ヲ与ンコトハ、勿論也。
 (18才) 志公ニモアタヘント云歟。不知、
 只達磨志公ハカリテモナイ。諸人ノ即今脚跟
 下ニモ、放ニ大光明ニ底、達磨カアルハト也。
 コレハ你等諸人ハ知耶不知耶看。然ルトキ
 ハ、五尺ノ瘦法師ヲ尋タカツテノ用ハ也。一
 僧下云、掛在面前。一僧云、豈當三人、ナラ
 ンヤ。三人ハ志公、達磨、円吾也。先師代云、
 今日横古路。漏逗也。又云、落処哉々々々。

評、達磨遷、從是至幾人ト云マテハ、
 達磨ノ事迹ヲ云。大乘根器ハ、指惠可大師也。
 會元ニ云、縁吾本離テ南印ニ来ニ此東土、見ル
 赤縣ノ神州、有ニ大乘ノ氣象、遂踰レ海ヲ越レテ
 漢ヲ為レ法ノ求人、際別未レ識、如愚若レ、訥、
 今得ニ汝ニ傳授ニコトヲ、吾意已ニ終ル云々。立雪斷
 臂等ノ事、實ニ大乘ノ根器也。得々、得ハ、
 特也。ワサトノ義也。單傳、詳見會元
 一、不立文字ハ、離ニ文字ヲシレ也。直指

批、
 不立文字者、文字ヲ離テ知レ也。得々ハ
 ワサトノ義、特ト同。直指人心、見性
 ハ、心ト性ト一ツニ云リ。昔ハ一ニ示ス。
 今ハ子細アリテ別々ニ示ス也。落居同也。脱体
 見成ハ、林際モ云リ。又開山ノ垂示ニモア
 リ。計較情塵ハ、智解情量也。洒々落々ハ
 衲僧ノ用ヒ也。師云、上無攀仰、下 境界
 也。漏逗也。有幾人、先師ノ下語アリ。直

時知識、皆一打葛藤。不妨、達磨与他
 武帝、打破也。漆桶、言漆粘桶底也。喻
 武帝滞着教、而達磨掃絶之也。如是則、就打
 葛藤之中、奇特也。所以道、一句曰本地
 風光、本来面目也。若於此古則而称一句、即
 廓然無聖乎、不識之話乎也。坐得断、シツカ
 トシキツメル也。把得定、トリツムルソ。言
 坐断・把定天下学者也。古人、永嘉真覺
 之證道歌語也。粉骨、多故事。詳有抄。
 言如是辛苦、未為十分酬自己也。一句、
 一句在処甚多。如何程曰一句哉。或曰本地風
 (13ウ) 光、或本来面目、或正位等也。了然、
 悟也。超百億、釈迦者、弥勒之後佛也。超越
 弥勒出世成道之義也。了一句、則超百億劫也。
 越三祇、而一超直如来地也。劈頭、以刀
 竹頭ニ打タテ、ホカト破也。達磨打破他武帝
 見解、以無聖一拶ツメラレタ。漏逗、兵法書
 之語也。言敵手以太刀振舞、我取小刀故、路
 ヲヨケテ、サシヨリテ、アイシラウソ。達磨
 手マサリナルホトニ、武帝漏逗也。帝不省
 、人我、對朕之朕、我也。立人我故、
 達磨以初無聖、後不識截断、許多慈悲也。不

、心ト怛トヲ一云リ。昔ハ心ト怛トヲ一示ス。今ハ子細アツテ別示之。落居ハ一也。若恁麼、言ハ、不立文字、直指人心、見性成佛ノ処ヲ、見得シ(18ウ)タラハ、自由自在ノ活路ニ可出也。見得ハ、諸人ヲ云。サル前ハ、一切ノ語言、轉セラル、コトハアルマイソ。如趙州十二時辰話也。一切ノ語言ノ感ヲ受マイソ。脱体、不与物拘、脱体現成ト云也。便能、達磨於西天、破六宗ノ邪。後於此土、与武帝對談スル也。又二祖安心ノ因縁有之。計較、智解情量也。洒々落落ハ、衲僧ノ用ヒ也。上無攀仰、下絶己躬ノ竟界漏逗也。何必、一刀二截断シタラハ、何ノ是非得失ノ可分カアラン。雖然、圓吾、此様ニヤスサウニ云タレトモ、如此見得セン者、天下ニサノミ多ハアルマイソ。老宿云、圓吾、心蓋覆掃絶也。一僧下云、万里一條鉄。武帝、從是至天子ハ、武帝ノ事ヲ云也。放光般若經ト云ハ、大藏指要録云、放光般若經二十卷、共九十品与前大般若同本、西晋于闐國三藏無羅叉譯也。佛祖統記、武帝所講經論ヲ載タ也。放光般若經ヲ講

指也。又、圓悟ノ活処ニ云リ。武帝ハ、右手ノ内ニ武帝、天花、地、武帝ノ機縁ナシ。圓悟ノ上面ハ、殊勝ナト云(3ウ)心ニテ云平。底心ニハ、ヲカシキコトヲ云ト云意アリ。度僧者、僧ニナス意。惡水、無功德ノ下語ノコトシ。許你、々々諸人カ、ル。昭明太子ハ、武帝ノ子也。天下衲僧、先師云、真个衲僧ハ、不レ出レ得廓然無聖ノ境界者也。弄眼、瞠眼、邪解也。沒較、無用所也。不妨与他打破、他諸人ヲサス。等、達磨ノ云ト五祖先師トヲ、兩人ヲ扶テ、圓悟ノ云リ。參得一句、是、別ニ子細アリ。先師華叟和尚云、是ヲ參得セハ、大志ノ者テナウテハ、不可參得也。粉骨、一句、一句參得シタ恩ニハ、難レ酬也。是モ如何是一句ト。字面ニハ、大ニカワル子細アリ、師家カラ抄スル時、下語シテ知ヘシ。眼目定動、トチ目ナリタ。是何言說ソハ、直指為人シタ。有事無事、不堪者、廓然ノ上ハ、有事無事ト云コト不入也。不堪、不入之義。端、白雲端也。一箭、廓然無

識之下、武帝眼目也。定動ハ、目ヲ見張テ、不審シ不心得故、アケクニ、トチトスルソ。不知、不識之落処也。是何帝之不知、到這裏、不識之下、有無共ニ云処而茫然也。端和尚、白雲端之頌也。頌不識也。一箭、尋常弓之上手、以箭一落一鵬、達磨以廓然無聖之一箭、不射落武帝。若射落、則武帝可心得。故不射落、更加不識之箭、亦不射落也。相饒、一箭為多、况兩箭哉。不射落、不接武帝也。直鼎、不接得武帝故帰也。梁主莫道遣使、取闐國人去、達磨不回也。復云、餘字也。誰欲、白雲端、代武帝出氣而頌也。誰力招カウト(14オ)云タソ。拓跋氏、本胡也。自王天下名魏也。面壁婆羅門、壁觀、向壁故也。婆羅門有四流也。達磨守道居貞、潔白其行、而又王種、故曰婆羅門也。帝曰、不識、句面与達磨同、句中大別也。人多以下、邪解也。前來、達磨不識ハ、答沒滋味、帝不識者、不知之心、如是邪解也。雖如是、圓悟掃絶學者生解會之処、如是截断了也。當時、若志公向諸人問、還識此人、則如何答哉。何不、代武

<p>スルト云コトハナキ也。然トモ、<small>圓吾</small>ノコ、 <small>二</small>(19才)書ホトニ、定テ抛アルヘシ。感得 <small>度僧</small>、<small>僧</small>ニ度牒ヲ与ルニ、尋常ハ孔 方ヲトル也。武帝ハ、錢ヲモ不レ取シテ、<small>度牒</small> ヲ与ル也。依教、佛教ノマ、ニセラル、 ホトニ、更ニ私ニハセヌト云義也。上面ハ、近 コ口殊勝ナト云テ、底心ハ、ヲカシイ事ヲス ルト云心アルゾ。達磨、從是以下ハ、武帝 与達磨<small>問答</small>事迹ヲノセタ。無功德ノ問答ハ、 廓然無聖ノ問答ヨリ、サキトミヘタ。帝問云 朕即位以來、造寺寫經、度僧不レ可ニ勝テ 紀マ、有何功德。祖云、並無功德。帝云、何 以無功德。帝云何以無功德。祖云、此但人 天ノ小果、有漏之因、如<small>影</small>隨<small>形</small>、雖レ有、 非実。帝云、如何是真実ノ功德。祖云、淨智 妙圓、体自空寂、如是功德、不以世求云々。 早是、糞水ヲカケテクレウスモノヲ也。 何か可喫ヤ。無功德ノ下語ノコトシ。大灯下 云、斬釘截鉄。此古則ハ、兩処ニ下語シテ、 シル古則也。若透、這無功德ノ當意ヲ見 得セハ、你諸人親ッ見ル達磨<small>一</small>(19ウ)テア ラウン。且導、円吾ノ諸人ニツ、カケテ、</p>	<p>聖ノ箭也。一鵬<small>ハ</small>(4才)武帝也。更加一 箭ハ、不識箭也。<small>相饒</small>、コチフリニ達セ ズシテ、不識ト云々。<small>直隰</small>少室、下語 スル処也。先師代曰、行到水窮处、坐看雲起 時。又云、千峯向岳、百川歸海。<small>誰</small>ヲカ、此處好 欲招、兩点、誰ヲカト讀妙也。漏逗也。招 ヘキ者ガアラウスルカ。<small>昔</small>有一官人、誰欲 招之、誰ト云処ニ、下語シテ云、欲道牙齒冷、 先師抄云、意旨如何。官人無語。先師代語云 截釘斬鉄。師曰、欲道牙齒冷者、云マイト響 也。故ニ截断也。又、誰ヲカトヨムカ好 也。<small>道老漢</small>、指ニ達磨。中国ハ、ミヤコノ 意。<small>九年</small>面壁<small>ハ</small>、坐スルト意得ハウルシ。二祖 ヲ待テ居タ。<small>且</small>道、与達磨、圓悟之出レ カヲ一抄シタ。<small>且</small>得没交、ハ、諸人ノ相 識之識ト、窠窟ニ墮ルヲ教フテ云リ。捺胡ハ、 志公ニ捺胡セラレタ意。又、人ヲ捺胡シタ 意。捺胡ハ、ヌリツケラル、ナリ。又、ケカ ル、義。又、ヌリカタメラル、義。<small>見機</small> 僧之用ニ、<small>ハ</small>、利根ナ用也。異<small>ナリ</small>衲<small>(4ウ)</small> 僧之用ニ、好不唧喞、ハ、好字ノ心ハ、好 ナラヌ者チヤト云義。<small>普通</small>元年、抛<small>ニ</small>ナリ</p>	<p>帝云也。志公ヲ一棒打殺シタラハ、ケカサレ ナイモノヲ。捺胡、汚也。供他款、白狀スル ゾ。實不識故、曰不識也。見機而作、志公知 武帝起殊勝之念、曰觀音也。志公亦問程教者 故、曰觀音傳心印也。好不、指武帝也。 好ハ、ツヨク不唧喞也。亦好、言擯出志 公、ツットヨカラウスモノヲ。<small>入傳</small>、志 公、天鑑十三年示寂、達磨普通元年至、隔七 年也。若評、則天監四年、普通八年、其間二 十三年也。但可達磨志公出大綱而已。年代合 不合不足孝也。且道、評觀音也。成、豈 畜兩個觀音、人々は觀音也。時後、斥相 指心、禅面心次相之謂也。禰局、教者之 量セハクテ、不湛禅員、故加毒藥、光統・流 支二人故曰競也。得人、言ニ祖也。遂<small>(14ウ)</small> 不、不救我身而死去也。葬於熊耳、与本傳 有異。本傳埋熊耳、建塔定林、定林熊耳相去 三百里、今此書有異耳。後魏、非前魏後魏之 後、只其後也。追憶、聞如是殊勝、後悔 而哀也。碑文云、嗟夫、本傳夫字作平字。 見之、違之、言、雖相見不契之謂也。 遇之不遇字、本傳無遇之四字也。恨不細得也。</p>
---	---	---

一抄セラレタ。帝与、從是別シテ本則ヲ評スル也。姜約法師ハ、梁ノ惠約也。字德素、姓八姜氏也。世称ニ姜約法師、詳見統紀。傳大士ハ、務州善惠大士也。事見六十七則評、昭明太子ハ、武帝ノ太子、諱統、字維摩ナト云人也。持論、此時三論宗尤盛於世也。三論ハ專ラ立ニ諦ヲ也。有無ノ心也。非有ハ無、非無ハ有也。即性相ノ二也。天下ノ師云、天下ノ衲僧ト云トモ、廓然無聖ノ中ヲ八出マシキ也。与他、他ハ、武帝也、如今人、邪解也。師云、瞠眼睛者、非凡夫、瞠ハ直視不瞬兒也。且喜、没交渉ハ、ヨツテモツカヌト云義也。且喜ノ字ハ、不審ナ、コ、ハ揚テ抑イタ。ヨソラクハ、ソテアルマイソ。五祖、圓悟ノ師也。白雲守端ニツカレタソ。若人、言ハ、透ニ得廓然無聖之當意、則可レ隱ニ坐本分田地也。一等、圓悟ノ心也。達磨ノ道底、五祖(20オ)ノ道底ト、一等ニ葛藤ヲ打スル也。不妨、コ、ハ、兩人ヲ扶ル也。褒貶ノ句也。他八諸人ヲサス。漆桶ハ、楞伽云、人之曠劫、無明、結習膠肉スルトコト、恰如ニ貯漆之桶、黑洞々地ニシ

傳中、先師云、無用ナコトヲ、圓悟モ論シタ。阿那个是端的底、擲シテ下語サセラレタ。凡ハ直指為人也。達磨トヨムカ、好也カトヨミテ、人ニ不審セシメタ。而モ、直指為人備ル。成群作隊、下語スル処也。偏局、天台ハ、偏局、俱舍ハ、偏局トヨム也。數アマタ、石裂毒、達磨ニカウタル毒也。心無、フンテモナイ、非ニ禅僧ノ語、達磨即、直指シタ。先師云、今日横古路。又看脚下。蹉過、向ニ諸人ニ、抑シテ而モ直指為人ス。

今之古之、怨恨也。復讀云、心有、本傳沈淪作凡夫、正覺作妙覺、有相而執着則沈淪也。無心則成佛也。且道、徵祖師在処也。在什麼処、人々脚跟下、有一个達磨、人々不知也。

テ不明也。達磨ハ別シテ奇特ナリ。所以道
 參スルコト也。華叟和尚云、是八大志、モノ
 テナクテハ、不可參得也。コ、ハ、達磨・五
 祖見地一致ト云也。自然、坐斷、把定也。
 帚蕩・建立ノ二也。二于カラ自由自在也。古
 人云、古人ハ、永嘉ノ証道歌ノ文也。粉
 骨ノ字ハ、常啼ササ於ニ香城ニ学ニ般若一時也。
 既得レ法已テ、自恨レ無^{（菩提）}レ物ノ供ニ養スル世尊ニ
 忽遇ニ城中長者ノ不安ニ、欲ニ人骨髓ヲモテ
 マ、即敲レ骨出レ髓、賣ニ与ス長者ニ、所レ得ル資
 金ヲモテ買ニ種々華香ヲ、供ニ養佛ニ、其志誠可知
 也。碎身ハ、雪山童子為ニ半偈ニ捨ニ全身トク
 トソ。見ニ琪梵天注ニ、是モ參スル句也。如
 何是一句ト、師家、撈スルトキ、下語シテ知
 ルヘシ。會一句則超ニ百億ノ修行ヲ、直到如来
 地ニ也。達磨、或打云、劈頭ハ、當頭ノ
 義ト云、サリナカラ、コ、ハスルドノ義也。
 他ハ武帝也。(20ウ)コ、ハ、指廓然無聖ソ。
 多少、許多漏逗シタコトソ。帝、武
 帝ハ、曾不レ知也。却以、無聖ト云処ニ
 取付テ、又問タラ云也。達磨慈、眼目定
 動ハ、不定ノ義也。武帝ノ不レレ會、トチメニ

ナリタソ。是何、師云、直示為人也。到
 這裏、廓然不識ノ処^三至テハ、有事無事
 ト云コトハ不入也。非思量卜度^レ所^レ及也。古
 抄云、拈来ハ吳中ノ郷談也。不堪ハ、不入也。
 端和尚、白雲、コトワ、圓悟、タメニハ、
 ヲウチ師匠也。楞伽云、是ハ、白雲頌^二達磨^一、
 不識^二字^一也。一箭、達磨ノ抑下也。尋
 常^レ弓ノ上手ハ、タ、一箭テ射^二落^一一鵬^ヲモノ
 也。然^レヲ、達磨ホトノモノカ、二ノ矢ヲツカ
 ウテ射ハツイタソ。更加、ト云ハ、二ノ矢
 ヲツカウタ処ソ。相饒ハ、添フタ也。コチフ
 リニ達テ、不識ト云也。廓然無聖ハ。一ノ
 箭、不識^ハ二^レ箭^一ソ。直帰、サルホトニ、
 達磨ハ、一愧カイテ、少室峰前^二ヒツコウテ
 イラレタソ。少林^ノコト也。梁王、是水
 トニ、為撰シタ達磨ヲヨヒタカツテノ用ハ、
 復云、誰^レカカ、コ、カ、白雲ノ(21オ)カ
 量也。武帝ハ、招カウトハ云マイ。サアラウ
 ニハ、誰力可招ソ。誰ヲカノ点ヨシ。先師云、
 コ、テ如何道。一官人下語^二、欲言牙齒寒^一。
 先師撻云、意旨如何。官不契。代云、斬釘截
 鉄、云々。師云、欲言牙齒寒ハ、云マイト

ヒ、イタ、故截断也。或抄、一義ニ、此頌ハ、
 達磨ヲ揚ル也。言一箭、尋常ノ射手タニ
 モ、一矢ニ鵬ヲ落ス。况ヤ達磨ホトノ射手
 カ、ニノ矢ヲツカウテ、射損シハセウソ。達
 磨ノ心ハ、アタラ矢テ、不啣喙ノ武帝ヲ射テ
 ハ、矢ヨコシテアラウソト思テ、態ト射ハツ
 サレタソ。サテ知音カナイホトニ、直帰
 ヒツカウタ。梁王、武帝ヲ見カキリツメ
 テ、インダ達磨チヤホトニ、何ト喚トモ来ル
 コトハ有マイ。中ノ嘆コトハ無用ソ。誰欲
 招トハ、武帝ハ不契チヤホトニ、不可招ソ。
 サアル前ハ、誰力可招ソ。帝不契、達磨
 ハツイニ梁國ヲ出ル也。老漢ノ麼也。慌懼ハ、
 猶蹭蹬、々々ハ、失道也。渡江、福本ニ
 コノ下ニ、后有レ傳、折レ芦而渡レ江、恐未
 レ詳、贊嘆之言也。十七字カ(21ウ)アル也。
 佛祖統紀ニ、円吾云、后人傳、折レ芦渡レ江、
 未レ詳ニ所出トアル也、南北兩朝イ也、后魏
 高祖孝文皇帝、諱宏、姓拓跋氏、第六帝即位、
 改三元ヲ延興ト、當宋明帝泰始七年辛亥歲、至
 太和十八年遷都洛陽、二十年改姓元氏、在帝
 位、二十三年崩、世宗宣武皇帝在位十六年、

帝崩、蕭宗考明帝即位、改元熈平、至正光元、
 達磨至梁而入魏、即梁普通元年庚子歲也、方
 名中國者、謂_レ遷_二都_一洛陽_一也。達磨至、
 又恥_レカカイテハト思_テ、不_レ見_レカ、少林へ、
 クツトハイツテイラレタ。嵩明教ノ正宗記_ニ、
 魏ノ考明帝欽_テ師_一異迹_ヲ、_三屈詔命、師竟不_レ
 下_二少林_一アルソ。説得_二祖_一、安心_ノ因縁、
 并_レ礼拜シテ依_レ位_ニ立_レタコトソ。達磨_ノ二祖_一
_ニ傳法_ノ時、道副・道育・尼慧持モ侍側ト、
 通載_ニアルソ。彼方、或人_ノ不_レ書_ニ、達磨
 八、南天竺ノ高至王ノ第三子也。然_レハ、刹
 帝利_ノ王種(22才)姓也。ソレヲナセニ婆羅
 門トハ云_フソ。婆羅門八、臣下也。婆羅門ヲ
 八、淨行ト翻シテ、守_レ道ヲ居_レ貞。潔_ニス_一白
 其操_ヲトアルホトニ、其心テハシ云_フ歟。是
 同是別八、圓吾ノ力量ヲ出シテ一撓シタ。人
 多、邪解ヲ云、相識八、情識ノ義也、
 コ、八、諸人_ノ墮_ニ窠窟_ニヲ救_テ云_リ。且得
 、或抄云、此没交渉八、即不_レ言_ニ相識_一之
 識_ニ、嫌_下達磨_ノ前來答_ニ、_上他_ニ禪_一之見解_ヲ、
 故_ニ示_レ尔、當時、何不、円吾ノ力量ヲ
 出シテイハレタ。円吾_ニ志_ニ公力_ニ若_レ陛下、否

ト問タラハ、一棒ニ打殺テクレウスモノヲト云也。捺糊可レ作ニ塗糊、又リヨコイタソ。志公捺胡セラレタ。又人ヲ捺胡シタソ。師云、円吾ノ心ハ、武帝ノ不識ハ、却較些子、遷活人也。達磨不識ハ、無風起浪也。志公モ、其同罪ナレハ、打殺ント云也。武帝却、一打ニ々テ、打殺ハセイテ、却テ白状サセタ。供^ニ他^ニ款^ヲ、尽^レ情^ヲ吐露^スノ方語也。志公見、此ハ、利根ノ用也。異^ニ衲僧^ノ用^ニ也。志公ノ(22ウ)チットナフツテ見フト思テ、武ヲヨク知^テ、佛心印ヲ傳ヘウトテ、觀音ノ来ルト云也。其ナラハ、使^ラヤツテ、喚^ハウト、武帝ノイハレタ。ナニカ作家ノ衲僧ナトニ、此様ナコトヲ云タラハ、大^ニ恥^ヲカ、ウソ。好不、円吾ノ判語也。好ノ字ノ心ハ、好ナラヌソ。當時等、円吾ノ力量也、擯^シ他ノ他ハ、志公也。佛心印ヲ傳トイハウツカイニ、國ヲ逐出テクレウスモノヲ也。師云、コ、ニ直示為人ノ処カアルソ。人傳、十三年八甲午也。普通元年ハ、庚子也。其間七年也。古本ニハ、志公^ヲ天監四年乙酉ニ化去、達磨ハ普通八年丁未ニ方来、自隔十余年トア

ル。是ハ傳灯、ヨツタ、大ナル錯也。今ノ新板ニ所改尤可也。傳灯、西來年表、并高明教ノ傳法正宗記同之、円吾ハ、傳ノ中ニ所載ヲカイタマテシ。如今、円吾、心ハ、不レ可レ論ニ年代、只知宗旨、大綱、則可也。サノミト、ケテ無用ト云テ、道ヤル也。先師云、無用ノ事ヲ、円吾ノ論シタ。且道、是ヨリ円吾ノ諸人ニ向テ一撝也。達磨^ラ(23オ)觀音大士ト云コトハ、本則ニシタ。志公ヲモ佛祖統記ニ觀音チヤト云タ。始^テ宋明帝十一年ニ終梁武天監十三年、兩人觀音カアルコトナラハ、トレカ端の底ノ觀音^テアルソ。既是、ナニコト兩人マテハアルソ。畢竟^{シテ}、コ、ハ端のヲ問サル也。那裏^{ニカ}端のアラント也。直示為人也。何止、兩個ハカリテハアルマイ。成群成隊、下語スル処。尽大地皆觀音也。隨処作主、立処皆真也。処々弥陀佛、家々觀世音トモ云タ。藥師トイハウトマ、ヨ師云、此批判ハ、竜頭蛇尾ナリト云ヘトモ、徧界不覺感モノヲ直示為人スル也。不可依声色^ニ看^ト云々。時後魏、從是入滅ノ事迹ヲ云。光統律師、菩提流支^ニ三藏共^ニ相宗^テ

アツタトミヘタ。師斥相、相八有相ノ法也。心八、大乘心地ノ法也。偏局、執シテ小乘偏見之法ヲ、不堪レ見ルニ、大乘ノ深奥ヲ、偏ハセ八キ也。局八、曲也。又八、カキル心也。キヨクノ音ナレトモ、モトカライツトヨミ付タ。競起、會元ニ是非蜂起、祖還ニ振ニ玄風ヲ、普ク施ス法雨トアルソ。此兩人力論義ニマケテ、達磨ヲ(23ウ)殺サウトシタ。律師三藏力、偏見ノ心テ無念ニ思テ、達磨ニ毒ヲカウタ。第五度マテハ、其毒ニ侵サレヌ、第六度ノ時ハ、二祖ト云傳法沙門カテキテ、ヒマカイイタホトニ、其毒ヲ去ヌソ。遂ニ湛然トシテ示寂セラレタ。ツイニ毒ニ八侵サレヌトミヘタ。六度メニ八、死タウテ死レタホトニソ。禹門ノ千聖寺テ入滅也。節魏文帝大統二年丙辰、十月五日也。其年十二月廿八日葬ニ熊耳山、起ニ塔ヲ於定林寺ニ。事苑ニ八、大同二年十二月五日ニ示寂云々。熊耳山ハ、其山兩峯、状若ニ熊耳、因以名焉。与ニ少林ニ相去三百余里也。後魏、會元云、後三歲魏ノ宋雲奉テ便西域ニ、回ルニ遇ニ祖ニ于葱嶺ニ。見ニ手携レ雙履、翩々トシテ遊、雲問師、何ニ方

往^ツ。祖曰、西天^ニ去^ル、雲^ニ歸^テ具^ニ說^ク其^ノ事^ヲ。及^ニ門人^一啓^レ墳、唯空棺一隻、草履存^ス焉。拳^レ朝^為之^敬歎^ス。奉^レ詔^取テ遺履^ヲ於^テ少林寺^ニ供養^ス。至^ニ唐^一開元十五年丁卯歲^ニ、為^レ信道者^ノ竊^ル。在^ニ五臺^ノ華嚴寺^ニ、今不知^ニ所在^一云々。武帝[、](24才)初逢^テ達磨^ニ遂^レ不^レ契。達磨^ハ魏^ノ國^ヘ販^ラレタ^ホト^ニ、達磨^ノ牌^ノ文^ヲ、セメテカ、ウト思^ハレタ^レトモ、ナニカト打^マキ^レテ、カ、レナンタ^処ニ、宋雲力葱嶺^テ逢^タト云^ラキ^イテ、牌^ヲカ、レタ^ソ。嗟夫[、]碑^ノマン中^ニアル^ソ。達磨^ニハ^ハ達タレトモ、不^レ契^ホト^ニ、逢^ヌト^同コト^ソ。達不^レ達恋^ノ心也。遇^レ之^不遇^ノ四字^ハ、碑^ノ文^ニナイホト^ニ、可^レ削也。今^モ之[、]一期^ノ遺恨^コレマテ也。復^讀云、是^ハ、前語^ヨリモサキ^ニアル^ソ。何^モ牌中^ノ詞、是^モ心^无、心有^ナトアル。且^道、一^擲學者^ニ示^タ。先師^云、今日^横古路^一。又^云、看脚下。蹉^過、ハヤ達磨^ヨト認^ハ、千里^{万里}、人々^脚跟^下ニアル^達磨^ハ也。

頌、聖諦廓然、問ト答トヲ、ヒツツカ

頌、聖廓、問ト答ト、相兼テ頌

頌、聖諦、用古則之語也。何當、第

ウテ拈シタ。箭過、大灯云、廓然、矢過新羅也。何止新羅ノミナラン。天上天下、此矢ノ勢ノミ也。師云、達磨、廓然無聖ト道了マ雪豆ノ拳テ頌スルハ、是箭過新羅也。スキタコトヲ(24ウ)取出テ頌スル方力、過ノ字也。ハヤツ、スキタ。向雪豆云也。又聖諦廓然ノ落居ヲ用テ云。又帝不契。故箭過新羅也。唼ハ、三句也。廓然無聖ノ境界也。又雪豆ノ此ノ語ヲ愛シテ拳タ処ヲ、アサムキ笑也。又武帝、蹉過スル処ヲ云也。師云、夕、廓然ノ落処ヲ云々。又八巴吾ノ雪豆ト知音シタ。何當、直示也。廓然無聖ノ理ヲコトハルソ。三世諸佛摸索不着、歷代祖師註注不及也。過也。雪豆ノ的ヲ辨シ得マイト云モ、廓然無聖ニノソムレハ、蹉過シタ。箭過新羅ト同。又過ハ、トカト云義モアル。有什麼、巴吾ノ心也。サラニ弁シカタクハナイモノ。師云、弁シ得マイト云モ、弁セウト云モ、一境界也。付言直示也。香嚴樹上話、樹上易道ト云、樹下難道ト云類也。先師云、云カタイト云コトモ、云ヤスイト云コトモアルマイ。對朕、再来、先師云、マツハ武帝ヲ云、次二八

也。箭過、スキ去タコトヲ、取出シテ頌、過字ヲトル也。又ハ、聖諦廓然ノ落居ヲ用テ云。唼ハ、咲フタ方、知音、動絶アリ。三句ソナハル。唼ハ、廓然ニカ、ル。雪豆モカ、ル。又、即今用テモ云リ。何當弁レマ、就語直指也。(5オ)、過也、スキリタ。又、トカト云義、何當弁レシト云ニアタル。有ニ什麼、コトカ、圓悟ノ意也。什麼、出シテカ、直指也。雪豆ノ何當弁レシト云。圓悟ノ有ニ什麼、コトカト云語、スリチカウタレトモ、意ハ同コト也。樹上ノ話ヲ引。香嚴ト、雪豆トノ語、如シ。再来、武帝モ如此云。又、雪豆ノトリ出シテ頌スル故也。何レモ抑下也。三個四個、師曰、一二三四五ト云云ヲ、境界ノ外ニ、兼直ニ用力如キソ、大灯云、此ハマツスクニ、直ニ用タ。三人四人ヲ云リ、抑スル也。達磨・帝・雪豆ナントニカ、ル。又、怎麼去也、雪豆ニカ、ル。又、帝ニカ、ル。其時ハ、ソバツラ工行ソト云リ。中也、直ニ見成ト看ヨ。不識ノ上也。アタルト云義ニアラス。咄、不識ノ境界ヲ掃絶シタ。穿人、却、達磨

一句之着語也。把合問答、其端的如何可辨哉。辨端的者、世間少也。對朕、還云、也。用古則之全語也。至此頌了古則也。因茲、以下頌ニ事迹也、頌ニ主家一也。達磨之不識、截斷掃絶、而帝不契、故渡江去。雖離古則句面、承上而起下也。故因茲也。達磨者、宜截斷荆棘、何故曰生荆棘哉。句面抑下、句中托上也。凡自達磨以來、天下僧皆達磨宗、是即達(15オ)磨生荆棘也。荆棘、好見方也。不惡見也。闍国、志公之辞也。千古、言武帝追憶達磨、コイシノハレタソ。達磨之事而已。常住憶也。至此古則ノマ、頌也。休相憶、以下雪豆出氣也。アノ彌ムケラ憶テ、何ノ用ソ。清風、指宗師本分也。何止達磨一人有清風哉、天上天下之間、山河大地、人々脚跟下有清風。何時極哉。憶達磨一人為什麼。師願視、師字冗字也。入過也。編錄者、雖加字、今者頌、故有師字非也。這裏、言我自己之処、有達磨處。雪豆問大衆大衆於是、一句不出、故自云、茲有達磨也。嗚呼茲有達磨也。喚來、若有祖師達磨、則可喚來、使洗吾脚也。以達磨為實位、正中

指達磨不識一也。或義二、武帝ノ語ヲ(25オ)雪豆ノ重テ、コ、ヘモツテキタヲ云ト、又恁麼、武帝ハ、スチナイ方ヘユクヨト、又武帝ノ語ヲ、雪豆ノコ、ヘモツテキテ云ヲ云、字ハ趙州ノ婆子勸破話ヨリ出ツ。還テ云、或義ニ、マタトヨム也。前ノ廓然无聖ニマタ也。從是以下ハ、事迹ヲ頌スルソ。三个、不識ノ落居也。又八達磨ノ廓然无聖ト云、不識ト云、雪豆モ廓然ト云、不識ト云タホトニ、三个四个踞過スル也。又ハ、ハタラカサテ、三个四个ト直ニ用タ。師云、三子四个ト云句ハ、一二三四五ト云句ヲ、竟界ノ外ニ、マツスクニ用ルカ如クソ。中也。アタリアタラサル処ニハアラス、不識ヲ見得シテ、中也ト云也。見成也。咄、古則ノ下ノ咄ト同、円吾ノ好語ト思テ、兩度マテ云也。廓然無聖ト云、不識ト云、其落処ハ咄也。因茲、廓然无聖ヲモ、不識ヲモ、武帝ノ受ハツイタ程ニ、達磨ハ、渡レ江至魏也。穿人土、達磨ハ、武帝ノ鼻孔ヲハ穿得スシテ、還テ武帝ニ穿タレ(25ウ)タ。是ハ抑下ニハアラス、贊嘆スル也。或云別人ヲハ雪豆ニミル、此義ハ非也。古抄ニ別

ヲ抑下ノ様ナレトモ、底ハ、贊嘆チヤ。別人トハ、帝ヲサス。蒼天々々、苦哉仏陀耶之義。達磨ニカ、ル抑揚アリ。又、帝ヘモカ、ル。其時ハ、一向抑下也。好不丈、アタラ達磨ノ比興ナル者ニトリアウテ、ハチヲカキタ。(5ウ) 豈免、此ハ、衲僧用ル荆棘ニハカワル。渡江至魏処ヲ、脚下ガムサタトシタト云義、抑下也。兩重公案、マツスクニ、見成ニ可見。又、前ト、此ト云リ。用追、圓悟ノ意。在什麼、就語直指也。大丈夫、是毛直指也。又ソノ様ニイカメシキ人ハ、ドコニアルソ。千古、帝ニカ、ル、諸人ニモカ、ル。換手、愁歎兒。帝ニカ、ル、後梅シタ。望空、是モナケク兒。帝ニカ、ル、後梅シタ。此兩句ハ、空相憶ト云字ニカケテ云。又、後休相ト云タホトニ、換手ト云タ。此說非也。道什麼、就語直指也。向鬼、上ハ雪豆ヲ抑シテ、底ハホメタ。清風、兩点同。有、何極カ、直指也。又云、三字剩語ナリ。果然、如レ案ノ、前ニ休ト相憶ト云タカ、如レ案ノ、

偏也。句面抑下、達磨也。教文之法身向上、若比宗門向上、則無高於自己。然則洗脚処、托上達磨、安主梵天之上也。句中托上也。着語、箭過、射過也。非句之過、已古則有之。過了之語、令頌拳之也。重拳過了底之語也。嘆、アツト感シテ、アライカメシヤト云ソ。曳、重物、エイト云心也。抑下而卑(15ウ)ト云ハ、大語也。過也、承上箭之語也。サレハコソ、射過シタレ。達磨射不中、武帝言不接得也。有什麼、言聖諦アレホト、キツカトミエタニ、トコカ難辨ケレハ、雪豆ハ、難辨トワ云ソ。再来、句面ハ、古則之語再頌、故曰再来也。已古則拳了、雪豆又拳無益也。句中非抑雪豆、指武帝不納得也。又恁麼、二義、一如是振舞也。二如以前振舞也。繫於下句之語也。達磨曰不識、雪豆亦曰不識也。三个四个、言無聖一度、不識二度、而不中、雖云三度四个、豈敢中哉也。武帝之旨得。咄、非邪咄、掃絶不識之至極高処、而正咄也。穿人、不接武帝、而却志公ニ見スカサレタ。観音ト云レタワ、許多見

人ハ志公ヲ云ト、蒼天、武帝ニカ、ルトキハ、一向抑下也。達磨ニカ、ル時ハ、抑揚カアル、有深意。或抄云、達磨ノ知音、キイ処ヲ、嘆息スルナリ。字ハ鄒稷峰ト石頭トノ機縁ヨリヨル。根本ハ、毛詩ノ字也。好不、此モ武帝ト達磨トニカ、ル。達磨ニカ、ルトキハ、底ニホムルソ。或抄云、少林ヘニケ処ハ、丈夫テハナイト云也。豈免、從西天来、東土、亦渡江至魏、脚跟郎當スルホトニ、不_レ免_レ生_レ荆棘也。雖然實_ニ嘆達磨也。脚跟、師云、落処也。評云、諸人即今脚跟下已深数丈トアル也。人々有_レ分也。不_レ雷達磨、脚下生_レ荆棘。雪豆、脚下モ、乃至諸人ノ脚下モ、深数丈也。闍闍、兩重、志公ノ云タニ、又雪豆ノコ、テ頌シタホトニ、兩重也。又云、直_ニ見成_レノ上テ見ヨ。或義ニ、聖、廓、テハテ夕処ヲ、志公ノ闍闍、ト云ホトニ、兩重也。(26オ)一師云、非_レ達磨志公_ニ、自己分上_ニ不_レ用_ニ是非也。字ハ、睦州_ノ機縁_ニアリ。用追、円吾_ノ為人ノ手也。在什、付言直示也。大丈夫、志公、達磨ヲ云、好

清風、ト云句ヲ云タハ、大小、サハカリノ雪豆カ、清風、ソクハク落艸シタソ、ト云句ヲ云タヨト也。你待籠、白状ヲヒルカヤサウト思那ト云リ、後ニ有ト云ントテ、有_二祖師_一麼ト云タホトニ云リ。有麼ハ、ナシトヒ、ク故也。猶作這去、雪豆ニカ、ル。適来重々道了テ、猶此振舞ヲナスト云也。欄薩、護_レ人不少ト云(6オ)方語也。又、仏ノ名也。其時ハ、マツスクニ用フ。在_二仏名經_一。又、重々増板_ト云方語也。大灯云、仏ノ名ノ時モ可也。不_レ墮_レ理、直_ニ看_ヨ。更_ニ与_三、圓悟ノ意、雪豆ヲ底_ニホメタ、脚ヲアラワシムルニ、更ニト云リ。更ニ与_二棒ヲトナリ、雪豆ト同路シテ云リ。何止洗脚哉、与_二三十棒_一可趕出也。作道、猶、雪豆_ヲソクハクホメタ。抑シテ揚ス。

入カサレタソ。蒼天々々、二義、一歎嗟事之義、一遠而遠也。渡江去故、与武帝相去遠也。好不、好ハ、常ニヨシト讀メトモ、ツヨク丈夫テモナイ心テ、カウト讀カ善也。脚跟ヤ、諸人大衆之脚跟下コソ、イツモ深ケレトモ、日夜朝暮不知而過也。非達磨一人脚下荆棘之深也。兩重、古則与頌兩拳也。用追、追而無益也。在什、手實在我処、直指示也。不在他処也。大丈夫、若丈夫則不可追、却追尋跡、失却丈夫志、在何(16オ)処也。換手、震旦吊人死、則以左手捶胸、又以右手捶胸、而仰天曰嗚呼天、歎嗟也。啓告、訴告有上天也。自上而告下、カウト讀、自下而告上、コクト讀也。然則コクナリ。サレトモ、カウモ、コクモ、終同心也。此人ワ、ツヨクナケカレタヨ。指武帝追憶達磨也。道什、ナニヲイワウソ。ナニトカイウントモ云、相憶トワ、何ヲ云ソ。三讀アリ。相憶豈憶達磨哉。別可有憶者、圓悟不露、而為使學者、知之問學者也。向鬼、以小見解為善、謂不可有此上。狐狸之坐禪、而為至極之謂也。又死人之用也。今達

不大丈夫_ト一般。千古、武帝ノクヒト
 思タナリソ。師云、千古万古ハ、指_ニ諸人_一也、
 武帝マテ、モナリイ、今日モ相憶也。換手
 、哭スル体也。空相憶ノ當意也。唐人ノ
 物ヲナゲクナリソ。一師云、是ハ、雪豆ヲサ
 ス也、初ノ四句ニハ似_ス、垂_レ手道也。空相憶
 ト云也。望空、蒼天_ト一般也。一山云、
 无_レ所_ニ告訴_一。只望_ニ虚空也。換_レ手_ニ槌_レ臂_ハ、
 男元十一、覆盆庵主ノ事也。望空啓告ハ、同
 十一、魏府大覺事也。休相憶、雪豆ノ力量也。
 達磨、去タリ共、面白キ事アルヘキト也。是
 ハ、下ニ物イハンタメ也。道_ニ什麼_一休相憶ト
 ハ、ナニコトヲ云ソ。付言直示也。向鬼、
 雪豆ノ休相憶ト云タ云也。上ハ抑、下ハ亦メ
 タ。師云、是モ付言直示也。又下ニ、清風ト
 云ヲ、ヨモハテ云也。種_{何レモ}ヨシ。(26ウ)
 トツコモ達磨テアルト云也。先師云、此句ハ
 落草句也、為_ニ慈悲_一故也。有何種_ニ三字_一刺語
 ト也。果然、清風匝地ノ境界ヲ、ハタラカサ
 ス、果然ト云也。清風、ノ処ソ、サソト云
 也。大小、サハカリノ雪豆力、清風
 ノ句ヲ云タヨト也。ソクハク落草シタ。楞伽

磨為最上之至極、宗門之至極、相憶故、鬼窟
 也。又ハ繫于下之語也。果然二字、絶句
 也。マツサテサウ、トコニ有極ソ。不絶句、
 又可也。大小、訓講甚多。大人カトヲモ
 ウタレハ、小兒也。雪豆者、謂向上知識、乎
 却句下也。向草、為向上、却落草說也。
 ソコハク垂手也。小兒入草、其父憐之、共入
 草_ニコロヒアルクソ。
 你待、你指雪豆也。朝還有咎者、吏責問
 之、則欲暫休息、換却以前之白狀、イマチツ
 トラマチサウエ、申シナヲサウ。言雪豆換却
 手段、別欲說法也。曰有(16ウ)祖師麼、却
 換手也。猶作、去就去惡就善也。只振舞
 也。向已曰何種、又曰有祖師麼。故猶作ト云
 也。塌薩、瞞人不少之方語也。瞞大眾也。
 又繫于下之語也。上下共繫也。繫洗脚之語也。
 更与、圓悟着語、高於雪豆也。雪豆令洗
 脚、圓悟不用洗脚、只与三十棒、而可趕出
 也。趕出即未分外脚アラワセコトモイヤ、
 打テヤラウソ。与棒、棒主文也。主文、
 宗旨本分也。与達磨於本分之義也。不啻抑下
 達磨也。托上達磨也。作道、曰洗脚、子

云、大小大八、北方^ニ罵人之起頭語也。師云、有何極下云三字力、アマリ^ニ落草ナ程^ニ、引^ニ得此語^一也、師顧視、師八雪豆ヲ云也。清風匠地、ト云タラハ、學者カトツコモ達磨チヤト思ヘキホト^ニ、ソレヲ破ラウトテ、カウ云也。下^ニ物イハウタメ也、你待、你雪豆也。番八、飄ノ義也。白状ヲ為直サウトスルヨト、猶作、去就八、動止也。フルマイ也。適来重々道了テ、猶此ノフルマイヲナスト云也。自云、有。師云、是モ白状也。下^ニ物云ヘキ為也。人八答又ホト^ニ、ワレト有ト云也。塌薩阿勞、瞞人不少ノ方語也。事苑^ニ梵語也。有麼^ト云テ、有ト云タハ、人ヲアサムイタ者也。又コノ四字ハ、佛ノ異名チヤトモアルソ。(27オ) 換來、達磨力有ナラハ、喚テコイ、吾力足ラアラハセウス。眞實^ノ達磨^ト云モノカ、ヨハレテ來ハセマイ。コ、八帶色^ヲノヤウネレトモ、別^ニ心カアラウハ、更与、円吾ノ心、向雪豆云也。サ云雪豆ヲモ、達磨^ニ和シテ、シタ、カニ棒ヲアヒセテ、コスイテクレウスモノウト也。ホメタコト也。サウシテモ、存ノ外ノコトテ

ツトヨイソ。サワトシタ、脚ヲ汚シテ、ナニセウソ。サレトモ、チツトヨイソ。

ハアルマイソ。更ニトハ、達磨ノ外ニサラニ雪豆ヲモ也。作道、如此ノフルマイヲナスモ、雪豆ヲ褒贊ノ句也、又有心也、

頌評 且提、此一段ハ、揅論也、雪豆ノ、此古則ヲ頌スルハ、上手ノ兵法師ノ太刀ヲツカウヤウナ。太阿劔ハ、越絶書云、楚王召シテ風湖子ヲ、令レ之ニ吳越ニ、見テ欧冶子千將ヲ、使之為ニ鉄劔三枚ヲ、一曰龍泉、二曰太阿、三曰工市。其後齊ノ張華、雷煥力、コレヲ掘出タコトカアルソ。向虚 盤碑ハ、狂子ニ解衣 トアル。ヲヒトキヒロケナ体ソ。コ、ハ自在無碍ナ兒ソ。自由自在ニ此劔ヲフレトモ、チツトモ劔、サキ(27ウ)ヲモ、ソコナハヌヤウニ、此頌ハアル也。雪豆ヲ褒贊也。若是無、コレハ、尋常ノ学者ヲ云、タ、ナヲサリノ学者カ、此頌ヲ拈シタラハ、劔ノサキヲモソコナイ、手ヲモキスツケウス也。不具眼ナラハ、此古則ヲミソンスヘキ也。若是具眼、コレハ作家ノ手段ヲ云。此頌テイハ、一拈一掇也。取也。廓然 不識等ヲ拈シテ、頌スルヲ云。一褒一貶ハ、何當弁

批、盤碑ハ、自在兒。又、旋轉兒。雪豆ヲホメタ。指定ハ、サシサタメタト云意也。大凡頌古、雪豆ノ頌古ハ、異ヲ尋常ト云シタメナリ。雪豆ノ頌古・拈古、与尋常、同カラスト云義。畢竟作歴生、圓悟ノ一擲也。到這裡、圓悟ノ落艸也。如擊石火、或説ニ、此語、保福之語也。等ニハ你カ開ニラ、以言句難述也。計較、鶻子、智解情量スレハ、鶻子ハ、チヤツト過クル也。是一般カ、圓悟ノ推出シテ漏返シタソ。先師ノ云、我ナラハ、是字ヲ一ツ置カシ兩般ノ上ニモ、兩概者、廓然ト、不識ト、兩概ナリ。已深數文、人々有レ分之義。此ニテハ、荊棘ト云ハ、目前ニナル也。達磨在什麼処、直指也。撥轉、関板子者、サシ出シ云リ。私、凡言句ヲサス。赤心ハ、ム子ヲアラワニ(6ウ)シテト云意。喚来レ与老僧 一ト云タカ、本分

批判、且提、贊雪豆也。太阿、言無所拘也。盤碑、拖也。自在ノ意也。非解衣盤碑之義也。自然、善用不犯其鋒也。喻雪豆把住、放行之妙用也。若是、勸学者也。傷鋒、尋常傷、金剛之鋒也。傷字、傷自己之義也。傷於鋒也。看他、指雪豆也。拈八拳古人之古則也。掇ハ、我頌出也。褒ハ、聖諦・廓然、何當弁的、褒達磨也。達磨之上不可辨也。貶ハ、對朕者誰、曰不識、而終(17才)不識、貶達磨也。四句頌、自聖諦至不識之四句也。指定、カキサタメテ、大凡頌古、評論拈古也。頌古為学者、宛轉而説也。繞路、言可直往。学者曲往也。拈古ハ、正直ニ拈古則而頌也。提款、言、更實問人之過、而如白状告案也。言正直也。雪豆与、評廓然也。劈頭、マツカシラニソ。初句下、指達磨之廓然也。着道、指何當之句也。且

のナレト、云^(卷)、裏^(甲)、ウラニ、ヤカテ脱カ
 アルモノソ。指定ハ、指磨師定也。サシ定
 ムル也、大凡、是ハ、捻シテノ頌古・拈
 古ノ作様ヲ云々。繞路說禪トハ、マツスクニ
 古則ノ意旨ヲ作ルソ。拈古、擬款、トハ、
 科人ヲ散問シテ、ソノ白狀ノ詞ヲカキ付テ
 ヲクヤウニスルソ。師云、雪豆ノ頌古ハ、尋
 常ニ異ナリト云々トメ也。頌古ハ、擬款結
 案、拈古ハ、繞路^(繞)說禪也。雪豆与
 レヨリコノ頌ヲ評スル、他ハ諸人ニカケテ云、
 劈頭トアル也。コレコソ尋常トカハツタ処ヨ、
 雪豆於、初句ハ、聖諦廓然ヲ云々。這一
 句ハ、何當辨的ノコトソ。且道、(28オ)
 円吾、一撈也。直饒、作家ノ手段也。イカ
 ナル作家モ、エシルマイソト也。字ハ、大滂
 誓^(滂)、上堂ヨリ出ル也。到這裏、コ、ハ直
 示也。鉄眼銅睛テモシルマイニ、マシテ情識
 テハ、ナニカ知ラレウソ。卜度ハ、思量卜度
 也。所以雲門、少モアトヲトメ又兒也。
 又ハ早イ兒也。コレハ、保福、上堂ノ語也。
 雲門ノ録ニハナイ、コノ^(卷)、キ也。這个
 、^(卷)、落中^(中)也。等你、以言句難レ述

ノ手脚也。本分手脚ハ、滅人威光タコソ、
 本分手脚ヨト也。私、本分手脚者、圓悟ノ
 雪豆ヲ、コチフリニアワセウスル者ヲト云
 乎。喚作驢、師曰、參水拈牛話可知
 之。喚^(喚)祖師^(祖)作^(作)驢^(驢)トカ、是作^(作)馬力、是ト云
 リ。只許老胡知、知、淺也、會ハ深也。
 以^(以)此句^(此)ヲ^(收)、大^(大)子^(子)細^(細)アリ。此句ノ境界、禪
 僧ノ物ヲ云体裁ナリ。師話曰、昔有一尊宿講
 碧岩、談^(談)許老胡知不許老胡會之義之時、言
 外和尚之弟子ニ、アコ上郎ト云女房アリキ。
 向^(向)尊宿^(尊)云、許老胡^(許)者、ソノヤウナル事
 ニテハ候ハ又、ト云テ、一手ニ疊ヲ押へ、一
 手ヲハサ、ケテ、示^(示)尊宿^(尊)、昔ハ、女房ニモ
 カ、ル者アリタルソ。私、雪豆ノ喚來与老僧
 洗脚ト云々モ、許老胡知、不許老胡會ノ境界
 也。又、圓悟之喚作驢、喚作馬、ト云々
 モ、許老胡、不許老^(不)之用^(用)也。故^(故)畢^(畢)竟^(竟)作
 麼生ト撈シテ、只許老^(只)云々。
 師話曰、先師大天國師之時、師示衆云、達
 磨ノ不識ト云タル(7オ)処、ヲチトアリ。
 今日代^(代)達磨^(達)如何對得是ナラン。一僧云、
 与^(与)二^(二)掌^(掌)、弄物不知名ト云ヘシ。一僧云、

道、ヤウヤ辨スル、辨シエマイソ。鐵眼
 、無者也。只言作家之學者也。不可得知
 也。卜度、ヲシカハカリテワ、シルマイソ。
 所以、圓悟常引他人語、為雲門用、不是
 圓悟不學之語也。雪豆者雲門宗也。故引以為
 頌之證。如擊、雲門ノテハナイソ。保福
 從展之語也。石火電光、言、言句無蹤跡也。
 些子、指達磨公案。不落、也、等傳
 、你指心機等之學者。若待彼開口、用二
 ワタツヘカラス。鷄子、ハヤフサソ。疾
 飛之鷹、過新羅了也。認^(認)蹉^(蹉)過^(過)事、則早過了、
 不可追逐也。雪竇道^(道)、圓悟酌雪豆之心
 云也。或^(或)熬^(熬)、言雪豆古則拈了、而再^(再)領出
 許多老婆心切也。重々、古則与領拈也。一般
 、因學者之機也。見透話頭、曰未了底也。
 諸方、嫌邪(17ウ)解也。重拈、言
 邪解者、以因茲、以下為重拈公案、大誤也。
 四句領了、而使後人知之用、領事迹也。非拈
 公案也。蓋^(蓋)示^(示)吾^(吾)本來^(來)此^(此)士^(士)、傳法救遺情之心也。
 解粘、過去久遠切之無明煩惱也。斷煩惱
 易障也。粘縛易解去也。抽釘、指見解、
 斷所知障難也。針楔難抽拔也。剷除、解

也。ソレヲ口ヲ開テ、云出サウトセハ、ナンノ用ニモ立マイソ。計較、計較安排ヲ生セハ、ツ、スキウソ。鷗子、八、蹉過セン也。是毛落中^中也。雪豆道^道你、此是、重々為人ト云ハ、聖諦廓然ト云下ニハ、何當弁的ト云ヒ、又對朕者誰^誰下ニハ、還云、不識ト云々。真二重々為人也。且道、師云、禅僧ハ、如此物ヲ云ヘシ。文字ヲ問ニ似^マ直示為人也。先師云、若我ナラハ、是一般力、是兩般力トイハント。若是了底、師云、若我ナラハ、不言^テ知^レ販^ラト也。若是来、[、]兩概[、]兩頭ノ義也。諸方、[、]達磨[、](29ウ)問答ヲ重テ頌スルホトニ、[、]重頌^{一編}ト云也。是毛邪解也。殊不知、還云、不識ト云マテカ、四句也。此中二頌シ尽スコトヲハ不知也。後為、文字讀^テキコヘタ。非止當、[、]達磨[、]慈悲為人ノ躰裁ヲ以テ、西来セラレタヲ、ナセニ生荆棘トハ云ソ。其八昔ハカリテモナイ、即今人々[、]上ニモ有^レ分也。此ニテ荆棘ト云ハ、目前^ニナル也。闍國且道、[、]巴吾[、]一拶[、]令人看也。未后為人処ト云ハ、喚來為老僧洗脚ト云句也。

一喝スヘシ。一僧云、一踏^ニ倒^セ。國師曰、其ハ、サナレ共、帝王ヲ一踏々倒スルハ、不遜ナル程^ニ。老僧^{ナラハ}、可^シ打席^ヲト被仰タ。席ヲ打^ハ、武帝ヲ打也。又、漸源・道吾之間答之処ニテ、雪豆ノ、隻履西歸曾失却ト頌セラレタルモ、達磨之不識ト答ヘタルハ、不^レ言^ニ活句^ニ処ヲ目^ニカケテ、漸源・道吾[、]上ヲ引合テ頌セラレタリト、此^ニ御物語アリキ漏逗不少。(7ウ)

得失是非、向上向下、一切之差別、是揀擇也。一切之道理ヲ絶^{シテ}、淨躰々亦洒々タル是明白也。

粘拔楔、則除荆棘也。今生荆棘者、不止達磨一人生荆棘、今日建立達磨宗旨、皆荆棘也。可煞、一句評語ツヨク丈夫テナイソ。在什麼、言達磨向何処去哉。トコエイタルハ、逐迹タソ。脚下ニイラレウスモノヲ、知^ラ達磨在^レ何境界^ヲ、則可知雪豆未後洗脚之^ニ也。然則、達磨在^レ脚跟下也。恐怕、雪豆為人頌出事迹、而恐學者有知見解、故曰休相憶也。関板、[、]関者、門関也。板者横木也。拔板則門開、簡要之心也。相憶、鎖関板也。休相、撥轉関板也。トコヲ憶ソ。在脚跟下、故不憶他也。箇裏、[、]指脚跟下也。拈千古、清風千古万古、即今皆マツ同在、雖然尊者不知、故指出^{シテ}指示也。故拋向ト云、コレミヨト見セタソ。他又、雪豆怕學者執着、清風欲破之、曰祖師麼也。是亦為人也。赤心、言為人抽丹悞也。片々、(18才)年比也。如母為子。大煞、[、]滅達磨威光、洗脚故曰尔。一句評語也。洗脚之妙之^ニ也、与達磨於本分也。意在、[、]洗脚之心在什麼^ニ。在^レ人々之上、直指示也。喚作、[、]可名何物、無定名、驢馬祖之名、殺活自在也。

粘拔楔、則除荆棘也。今生荆棘者、不止達磨一人生荆棘、今日建立達磨宗旨、皆荆棘也。可煞、一句評語ツヨク丈夫テナイソ。在什麼、言達磨向何処去哉。トコエイタルハ、逐迹タソ。脚下ニイラレウスモノヲ、知^ラ達磨在^レ何境界^ヲ、則可知雪豆未後洗脚之^ニ也。然則、達磨在^レ脚跟下也。恐怕、雪豆為人頌出事迹、而恐學者有知見解、故曰休相憶也。関板、[、]関者、門関也。板者横木也。拔板則門開、簡要之心也。相憶、鎖関板也。休相、撥轉関板也。トコヲ憶ソ。在脚跟下、故不憶他也。箇裏、[、]指脚跟下也。拈千古、清風千古万古、即今皆マツ同在、雖然尊者不知、故指出^{シテ}指示也。故拋向ト云、コレミヨト見セタソ。他又、雪豆怕學者執着、清風欲破之、曰祖師麼也。是亦為人也。赤心、言為人抽丹悞也。片々、(18才)年比也。如母為子。大煞、[、]滅達磨威光、洗脚故曰尔。一句評語也。洗脚之妙之^ニ也、与達磨於本分也。意在、[、]洗脚之心在什麼^ニ。在^レ人々之上、直指示也。喚作、[、]可名何物、無定名、驢馬祖之名、殺活自在也。

雪豆恐怖、撥^ニ轉聞^ニ揆子^ト云八、師云、
 コレ八、這裏^ニ還有^ニ祖師^一麼、自云有^ト云、
 思八へテ云也。闍揆八、柩機也、撥轉^ト
 八、サシ出シテ云ソ。既休、前^ニ巴吾^一、向
 鬼窟裏作活計^ト云レタ。是^ニヲ点^ニ會^ニシテミセタ
 ソ。雪豆拈、清風匝地垂所極八、千古万
 古ノ事テアルヲ、今雪豆ノ擲出テミセタル也。
 非止、雪豆マテ、モナイ、人々分上^ニ無
 極事ハアルハト也。他又、他八、雪豆ヲ
 云也。雪豆到、千古万古^ノ(30オ)事^ニ
 執着セウト思テ又云也。赤心片々八、智ヲ
 アラハニシテト云義也。為人ノ兒也。慈悲ノ
 義也。又自云、滅人威光ノ人八、達磨也。
 滅人威光タコソ、本分^ノ手脚ヨ。洗足シメン
 ト云カ、本分^ノ手脚也。行令セウスモノヲト、
 巴吾^ノ云也。且道、巴吾^一、一撈也。足ヲア
 ラハセウト云心八、ナニトシタ心ソ也。到這
 裏、ナニトナサウトモ、自由^ニ三味^一也。師
 云、水拈^ヲ牛^ヲ話^ニ參^ニシタラハ、可知也。名
 邈、々ハ貌^ト同、ナニト名ヲ付テヨカラウ
 ソト云也。往々八、諸人ヲ云也。且道畢、
 一撈也。只許、知八淺ソ。會八深キ也。

名邈不得也。往々、邪解者、因雪豆曰洗
 脚、為使得達磨者、沒交涉也。且道、微
^ニ顯從上^一也。只許、老胡指達磨也。尋常
 講云、老胡知ル分八則是、十分會不得也。此
 義知淺會深、一義云、知根本知也。乃無分別
 知也。華嚴宗作智、天台宗作知也。若以無分
 別知之、則可許。以計較而領會、不可許也。
 無分別知、而可知也。涉慮^ノ知、分別而不會。
 此講則知八、高會下也。非抑下達磨之心、達
 磨亦不知。甚麼違^ニ却古則境界^一也。

老胡八佛ヲ云ヘトモ、コ、ハ達磨ヲ云、此句ハ參也。字面テハ知レマイソ。句中アリ。抑揚力アルソ。此句ノ竟界、禅僧ノ物ヲ云体裁也。先師物語云、昔有一尊宿、談許老胡知、不許老胡會之義。時言外和尚ノ弟子阿古上郎ト云女房アリ。向尊宿云、許老不許トハ、ソノ(30ウ)ヤウナルコトテハソロハ又ト云テ、一ノ手ハタ、ミヲ、サヘ、一ノ手ヲハサ、ケテ、示尊宿、昔ハ女房ニモカ、ルモノカアリト云々。私、雪豆ノ喚來与老僧洗脚ト云タモ、許老ノ竟界也。又円吾ノ喚作驢則是ト云タモ、同用ヒ也。故畢竟作麼生ト擲^ツ、只許。又大灯國師示衆曰、達磨ノ不識ト云タル処、ヲチトアリ。今日代達磨、如何答得。一僧云、与一掌、靈物不知名ト云ヘシ。一僧云、一喝スヘシト。一僧云、一踏々倒セン。國師云、ソレハサナレトモ、帝王ヲ踏倒スルハ、不遜ナルホトニ、老僧ナラハ、可打席、打席ハ武帝ヲ打也。又道吾漸源ノ問答ノ処テ、雪豆ノ隻履西歸曾失却スト頌セラレタルモ、達磨ノ不識ト答タルモ、不^レ言^ニ活句^ニ処ヲ目^ニカケテ、

道吾、漸源ノ上ニ引合テ、頌セラレタリト、
コヽニテ御物語アリテ、漏逗不少。